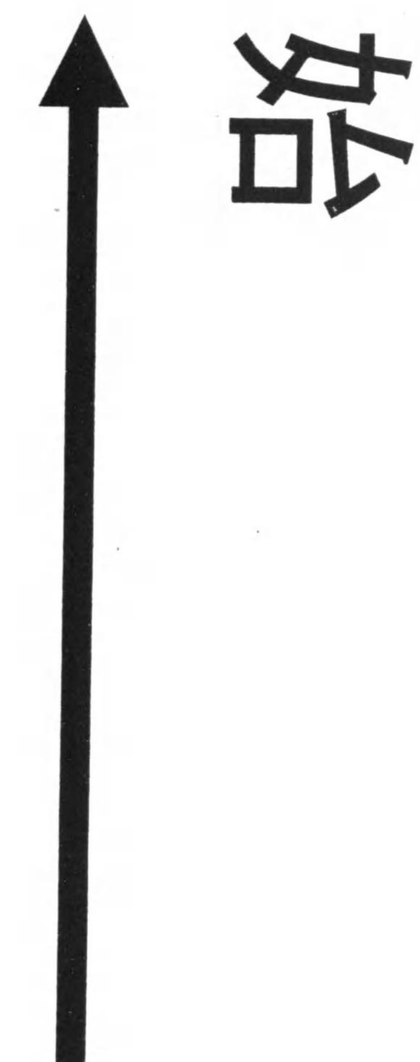
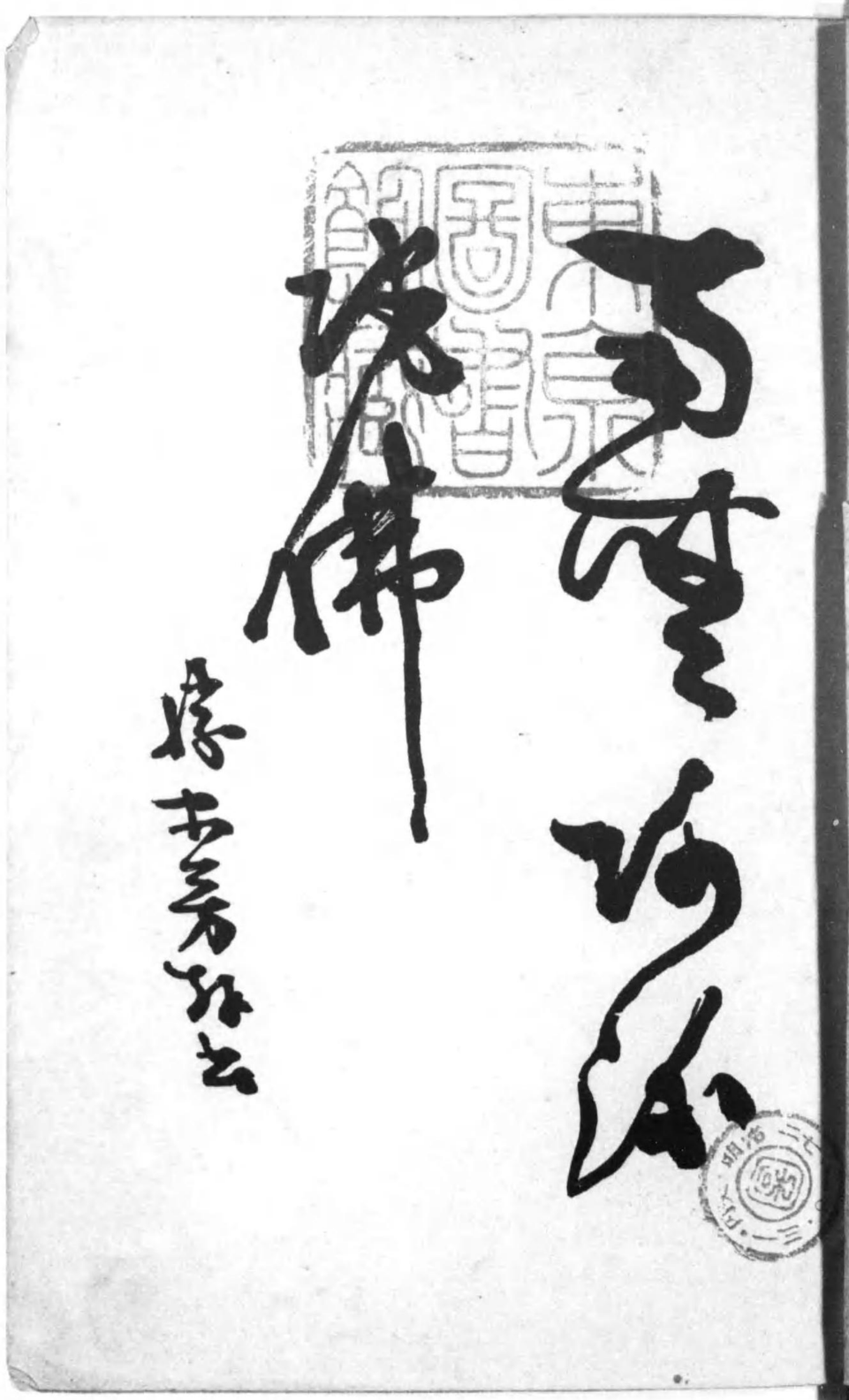
68-2431
12007016919 19
68
2431



68-2431



緒言

一余ハ曾テ佛教活論中ニ佛教諸宗ハ各其長所アルヿヲ説ケリ今此篇ハ眞宗ノ長所ヲ説キタルモノナレハ眞宗ヲ以テ最勝完美ノ教トナセリ若シ他宗ノ長所ニ至テ之ヲ見レハ其宗亦佛教中最上ノ教タルヲ知ルベシ是レ余カ顯正活論各論ニ於テ論明セント欲スル所ナリ

一余ハ宗教新論幷佛教活論ニ於テ佛教ト哲學トノ關係ヲ論シテ佛教ハ哲學的宗教ナリト云ヒタルニ此篇ハ佛教ハ宗教ニシテ人智以上道理以外ニ渉ルモノナルヿヲ論シタレハ前後矛盾スル所アルカ如シト雖モ哲學上ヨリ之ヲ視レハ佛教ハ徹頭徹尾哲理ノ應用ニアラサルハナク宗教上ヨリ之ヲ見レハ全教盡ク釋尊ノ啓示ニアラサルハナク表裏其見ヲ異ニスルモノナリ然ルニ他書ニテハ表面一方ヨリ之ヲ論シ此篇ニテハ表裏相對シテ之ヲ論シタルヲ以テ其論理ニ二樣相反ヲ見ルニ至レリ然レモ其實一樣ノ道理ナリ故ニ若シ哲學

上ヨリ之ヲ視レハ其所謂啓示モ皆道理以内ノ理ナルヲ知ルベシ例ヘハ宗教ハ道理一方ニテ講究スヘカラザルモノナリト云フモ絶對ノ本躰ハ知識ノ知ル限リニアラスト云フモ啓示ハ信セサルヘカラスト云フモ理外ノ理アリト云フモ之ヲ證明スルハ一トシテ論理ニ由ラサルハナシ苟モ論理ニヨレハ道理以外ノ理モ道理以内トナリ人智以外ノ躰モ人智以内トナリ其講究ハ皆哲學ニ屬スヘシ是レ此篇ヲ眞宗哲學ト題スル所以ナリ

一此篇ハ余カ顯正活論各論中眞宗篇ヲ講述スルニ當リ論明セント欲スル意ナリシモ已ニ本篇端緒論ニ於テ一言セル如ク目下一日モ早ク眞宗ノ哲理ヲ世人ニ示サヽルヲ得サル事情アリタレハ諸縣巡回中各地ニ於テ或ハ公衆ニ對シテ演説シ或ハ質問ニ對シテ應答シタルモノヲ日夜繁忙ノ中寸間ヲ偷ミ匆々編成セルモノナレハ定メテ謬誤疎漏モ多カルヘシト信ス

一本書初版ハ明治廿五年四月之ヲ發行シ本年之ヲ再版スルニ及ヒ眞宗分派傳燈等ヲ其前ニ加ヘ以テ一覽ニ便ニス其目次左ノ如シ

眞宗各派本山及開祖
(一)本願寺派　(二)大谷派　(三)高田派　(四)佛光寺派
(五)木邊派　(六)興正寺派　(七)出雲路派　(八)山元派
(九)誠照寺派　(十)三門徒派
眞宗祖師畧傳
(一)見眞大師略傳　(二)慧燈大師略傳
(三)本願寺歷代
眞宗相承及敎典
(一)眞宗相承祖師　(二)眞宗所依敎典
眞宗統計
本篇各論

本篇目次

第一段　端緒論　一
第一節　發端　五
第二節　本篇起草ノ旨趣　一二
第三節　護國愛理ノ二大義務　一六
第四節　眞宗哲學講究ノ必要　二〇
第五節　本篇論述ノ順序　二三
第二段　哲學原理論　二八
第六節　哲學上ノ大難問　三一
第七節　二樣幷存一躰兩面ノ眞理　三五
第八節　此眞理ノ證明法　三九
第九節　哲學諸論ノ調解　四六

第十節　宗教諸說ノ一致　五一
第三段　佛教原理論　五五
第十一節　佛教總說　五九
第十二節　有空二門ノ大意　六一
第十三節　中道ノ大意　六五
第十四節　理論宗ノ批評　七一
第十五節　實際宗ノ起原　七五
第四段　眞宗原理論第一　七九
第十六節　眞宗原理ノ分類　八二
第十七節　天台ノ平等論
第十八節　我人ノ知見
第十九節　天台淨土理論ノ相反
第二十節　天台淨土實際ノ相反

第二十一節　阿彌陀佛ノ性質　八五
第二十二節　阿彌陀佛ノ證明　八八
第二十三節　他力成佛ノ理　九一
第五段　眞宗原理論第二
第二十四節　感情的宗教　九八
第二十五節　我人ノ感情　一〇一
第二十六節　佛躰ノ感情　一〇八
第二十七節　感情智力ノ兼備　一一五
第六段　眞宗原理論第三
第二十八節　道理ト啓示トノ別　一一九
第二十九節　人智ノ有限　一二三
第三十節　絶對ト啓示トノ關係　一二六
第三十一節　佛教ト啓示トノ關係　一二九

第三十二節　眞宗ト啓示トノ關係　一三四
第三十三節　道理ト啓示トノ幷存　一三九
第七段　歸結論
第三十四節　聖道淨土ノ關係　一四四
第三十五節　平等差別ニ前後ヲ生スル理由　一五〇
第三十六節　實際上眞宗ト他宗トノ關係　一五三
第三十七節　眞宗ト淨土宗トノ異同　一五七
第三十八節　眞宗ト政治トノ關係　一六二

○眞宗各派本山及開祖

(一)本願寺派(末寺一万〇四百二十七ケ寺)

本山ハ本願寺ト稱シ京都市下京區西六條堀川ニ在リ開山ハ見眞大師即チ親鸞聖人ニシテ聖人ノ滅後十一年即チ文永九年季女覺信、孫如信ト共ニ洛東大谷ニ之ヲ創立ス其後諸方ニ移住セシモ天正十九年今ノ堀川ノ地ニ移住セリ宗祖ノ傳記ハ後ニ出タス

(二)大谷派(末寺八千八百五十四ケ寺)

本山ハ元ト東本願寺ト稱シ京都市下京區常葉町ニアリ其創立全ク本願寺派ニ同シ然ルニ第十一世顯如上人三男アリ長ヲ光壽ト云ヒ季ヲ光昭ト云フ文祿元年顯如沒シテ光壽之ヲ嗣ク同三年光壽故アリテ退隱シ弟光昭之ヲ嗣ク然ルニ德川家康光壽ヲシテ復職セシメントス是ニ於テ慶長七年光壽更ニ東六條烏丸ノ地ニ一寺ヲ創設ス是レ即チ大谷派本願寺ナリ光昭ハ本願寺第十二世准如ニシテ光壽ハ大谷派第十

二世敎如ナリ

(三)高田派(末寺六百二十六ケ寺)

元ト專修寺派ト云フ明治十四年十一月改稱シテ高田派ト云フ本山ハ高田山專修寺ト稱シ伊勢國奄藝郡一身田村ニ在リ其初嘉祿元年見眞大師下野國大內莊柳島即チ芳賀郡高田ニ一寺ヲ創建シ其弟子眞佛ニ之ヲ讓ル眞佛ハ其弟子顯智ヲシテ之ニ居ラシム之ヲ第三世トス其後第十世眞慧ハ實ニ中興ノ祖ニシテ寛正元年本山ヲ伊勢國一身田ニ移セリ是レ即チ今ノ專修寺ナリ開山眞佛ハ承元三年常陸國眞壁ニ生レ嘉祿元年春秋十七歲ニシテ見眞大師ニ從テ得度シ後深草天皇正嘉二年三月八日ニ入寂ス大師ニ先ツコト五年壽五十歲ナリ

(四)佛光寺派(末寺三百三十七ケ寺)

本山ハ澁谷山佛光寺ト稱シ京都市下京區新開町ニ在リ見眞大師建曆二年山科ニ一宇ヲ建立シテ之ヲ眞佛ニ付屬ス時ニ其名ヲ興正寺ト稱

ス第七世了源ニ至テ京都東山澁谷ニ移ス時ニ元應二年ナリ嘉曆二年五月勅命ニヨリテ興正寺ノ號ヲ廢シテ阿彌陀佛光寺ノ額ヲ賜ハル天正十年豐臣秀吉故アリテ寺基ヲ五條坊門即チ今ノ地ニ移ス

第二祖眞佛ハ後堀河天皇安貞元年十二月高祖大師ノ命ニヨリテ當寺ニ住職シ貞永元年七月十八日法席ヲ源海ニ讓リ正嘉二年下野國芳賀郡高田ニテ入寂ス宜ク高田派ノ下ヲ參見スヘシ

(五)木部派(末寺五十四ケ寺)

本山ヲ錦織寺ト稱ス近江國野洲郡木部村ニアリ元ト天台宗ニシテ慈覺大師ノ草創ナリシガ見眞大師之ヲ眞宗ニ改ム第三世ニ至ル迄傳燈本願寺ニ同シ第四世光玄(存覺)ニ至テ自ラ一派ヲナス開祖存覺ハ後圓融天皇應安六年二月廿七日寂ス壽八十四

(六)興正派(末寺二百五十二ケ寺)

本山ヲ興正寺ト云フ京都市下京區華園町ニ在リ佛光寺第十二世性善

ノ長子經豪(蓮敎)之ヲ創シ佛光寺ノ舊號ヲ用ヒテ興正寺ト稱ス明治九年九月十五日別派獨立本山トナリ興正派ト公稱ス

(七)出雲路派(末寺四十四ケ寺)

本山ヲ出雲路山毫攝寺ト稱ス越前國今立郡清水頭村ニ在リ初メ高祖六十一歲ノ時一字ヲ京都出雲路ニ創シ自畫ノ影像ト共ニ慈心房善鸞ニ傳ヘシガ五世善幸ニ至テ光明天皇曆應年中今ノ地ニ移ス開祖善鸞ハ親鸞ノ第三男ニシテ後宇多天皇弘安元年三月廿二日入寂ス壽七十四

(八)山元派(末寺十ケ寺)

本山ヲ證誠寺ト稱ス越前國今立郡横越村ニ在リ本宗三世淨如文永五年ヲ以テ丹生郡山元ニ創建ス後二條帝ノ時證誠寺ノ號ヲ賜ヒ勅願所トシ明治十一年派名ヲ公稱ス開祖淨如ハ花園天皇應長元年九月五日寂ス年七十六

(九)誠照寺派(末寺四十四ケ寺)

本山ヲ誠照寺ト云フ越前國今立郡鯖江下深江町ニ在リ高祖大師ノ開基ニシテ之ヲ二世道性ニ傳フ道性ハ大師ノ第五男ニシテ後宇多天皇弘安九年九月八日逝ク壽六十四

(十)三門徒派(末寺三十ケ寺)

本山ハ專照寺ト稱ス越前國吉田郡福井ニ在リ高祖大師ノ開基ニシテ如導(又ハ如道)實ニ一派ノ開祖ナリ如導ハ光明天皇曆應三年八月十一日寂ス壽八十八

○眞宗祖師略傳

(一)見眞大師畧傳

釋親鸞字善信自ラ愚禿ト號ス姓ハ藤原氏其先鎌足ヨリ出ヅ父ヲ日野有範ト云フ母ハ源氏ナリ承安三年四月一日生ル幼名若松麻呂、叔父範綱ノ爲ニ養ハル八歲ニシテ母ノ喪ニ會フ悲泣禁スル能ハス因テ出塵

ノ志アリ明年三月叡山青蓮院慈鎭ノ室ニ投シ薙髮シテ範宴ト名ケ天台ノ敎相ヲ學ビ博ク三觀佛乘ノ理ヲ探リ深ク四敎圓融ノ義ヲ極ム登壇受戒シ遂ニ聖光院ノ主トナリ大僧都ニ補セラル已ニシテ自ラ感スル所アリ建仁元年吉水ニ隱遁シ法然ノ弟子トナリ名ヲ綽空ト改ム時ニ春秋廿九歲法然ハ淨土宗ノ開祖ナリ親鸞ノ來リ投スルヲ以テ喜テ之ヲ上足第一トナス親鸞一日夢ム六角堂ノ觀音容顏端嚴ノ僧形ニ現シテ四句ノ文ヲ告テ曰ク行者宿報設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極樂ト親鸞以テ奇トシ深ク胸ニ藏シテ人ニ告ケズ此時ニ當リ法然ノ唱フル所ノ淨土ノ宗義海內ニ徧ク門徒三百餘、關白藤原兼實亦深ク法然ニ歸ス一日法然ニ問テ曰ク師ハ持戒ニシテ念佛ス弟子ハ噉肉蓄妻以テ念佛ス既ニ僧俗ノ別アリ其功力勝劣アリヤ否、法然曰ク本爲凡夫兼爲聖人、或ハ云フ一切善惡凡夫得生者モ豈ニ聖凡ノ別アラン加フルニ同一念佛ナリ何ソ之ヲ分ツ可ケンヤト兼實曰ク末

代ノ人情洗濯ニシテ恐クハ難行ノ法ヲ修スル能ハサラン是ヲ救フ唯在家易行ノ法アルノミ弟子幸ヒ一女アリ玉日ト云フ願クハ一上足ヲ屈シテ婿トナシ以テ易行ノ宗ヲ起シ以テ天下後世ノ惑ヲ解カン法然曰ク可シ是ニ於テ法然ハ親鸞ヲ以テ兼實ノ需ニ應シ以テ在家一向宗ヲ立シメン、ト欲ス親鸞固辭ス法然肯カス曰ク汝未タ知ラズヤ昔日夢ニ六角堂ノ觀音ヲ拜セルヲ汝未タ人ニ告ケズト雖トモ我亦此ヲ夢ミタリ救世菩薩ノ示現豈ニ虛フスヘケンヤト即チ親鸞ガ曩ニ夢ミル所ノ四句ノ文ヲ書シ以テ親鸞ニ示ス親鸞辭スルヿヲ得ス遂ニ其命ニ從フ兼實喜ビ女玉日ヲ以テ之ニ妻シ五條西洞院ニ居ラシム此ニ於テ綽空名ヲ善心ト改メ後亦善信ト改ム元久元年四月十四日法然選擇本願念佛集ノ題字幷ニ南無阿彌陀佛往生之業念佛爲本釋綽空ノ字ヲ書シテ親鸞ニ與フ蓋シ衣鉢ヲ傳フルノ意ナリ此ノ時ニ當リ南都北嶺ノ學徒淨土宗ノ盛大ニ赴クヲ惡ミ之ヲ妨ケント欲シテ朝ニ誣奏ス朝議遂

ニ法然及ヒ其弟子ヲ遠流ニ處スルヿニ決シ親鸞亦坐セラレ越後ノ國府ニ流サル時ニ承元元年ナリ居ルコト五年建暦元年赦免ニ會ヒ明年京師ニ歸リ一宇ヲ山科ニ建テ後今ノ地ニ移ル興正寺是ナリ既ニシテ復タ越後ニ赴キ北陸東關ノ間ニ行化遊歴スルヿ二十五年ナリト云フ(或ハ言フ勅免ノ後歸京セスシテ關東ニ行化スト)其ノ常州稻田ニ在ルヤ無量壽經ニヨリ淨土眞宗ノ名ヲ立テ敎行信證六卷ヲ著シ大ニ宗旨ヲ弘通ス是ヲ立敎開宗ノ本トナス實ニ法然入滅後十三年其春秋五十二歳ノ時ナリ是レヨリ淨土眞宗盛ニ興ル嘉祿元年下野國大內莊柳島ニ高田專修寺ヲ創立ス貞永元年春秋六十歳ニシテ歸洛シ嘉禎元年近江國野洲郡木部村ニ錦織寺ヲ造立シ弘長二年(即チ西暦紀元千二百六十二年)十一月廿八日平安押小路南万里小路東善法院ニ遷化ス(今ノ法泉寺是ナリ)壽九十烏邊野ニ荼毘シ廟ヲ大谷ニ建テ影像ヲ安ス滅後眞宗日ニ盛ナリ文永九年十一月勅シテ久遠實成阿彌陀本願寺ノ號ヲ賜

ハルト曰フ明治九年十一月廿八日勅シテ見眞大師ト諡ス大師ノ撰述ニカヽルモノ敎行信證ノ外ニ漢文和語ノ撰述數十部アリ

(二)慧燈大師畧傳

本宗第八世蓮如ハ本宗中興ト稱セラル世ニ御文(假名文ニテ綴リ鈍根ノ衆生ヲシテ本宗ノ宗義ヲ知リ易カラシメタルモノ)アリ此レ實ニ上人ノ手ニ成レルモノナリ上人字兼壽、信證院ト號ス第七世存如ノ長子ナリ母ハ何人タルヲ知ラス應永廿二年二月廿五日生ル幼名布袋麿ト云フ永享三年得度シテ蓮如ト名ケ法相宗ヲ學ビ寶德中東北地方ニ行化シ多ク祖師ノ遺跡ヲ興シ長祿元年宗務ヲ嗣キ再ビ東北ニ往キ當時宗門大ニ振フ朝廷日華門ヲ賜ヒ大谷正門トナシ其莊嚴ヲ增ス山徒之ヲ嫉ミ寛正六年正月大谷坊舍ヲ毀ツ上人纔ニ開山ノ像ヲ以テ免レ近江大津ノ近松寺ニ匿ル應永元年參州ニ赴キ本宗寺ヲ創シ居ル三年文明二年ヨリ諸國ニ行化シ一日モ寧處セス其足蹟畿內及北陸道ニ涉リ

越前ニ在テハ吉崎寺ヲ立テ畿内ニ在テハ河内ノ光善寺、攝津ノ敎行寺、和泉ノ眞宗寺ヲ立ツ文明十二年遂ニ地ヲ山階ニ相シ本願寺ヲ再造シ應仁二年宗務ヲ光助ニ讓リ文明十五年光助死スルヲ以テ再ヒ宗務ヲ司トリ延德元年復タ光兼(八子實如)ニ讓リ再ヒ各地ニ徧歷ス其至ル所詳カナラスト雖トモ播州ノ本德寺、和州ノ本善寺、大阪ノ坊舍等ハ此時創スル所タリ明應八年三月廿五日山階坊舍ニ在テ長逝ス壽八十五、明治十五年勅シテ慧燈大師ノ諡號ヲ賜ハル

(三)本願寺歷代

本願寺派

高祖大師親鸞聖人　入滅ヨリ六百三十三年　明治廿七年迄

第二世如信上人　正安二年正月四日寂

第三世覺如上人　觀應二年昭號毫攝法印權大僧都　正月四日寂

第四世善如上人　康暦元年俊支法印權大僧都　二月廿九日

第五世綽如上人　明德四年諱時藝勅號周圓上人　四月廿四日法印權大僧都

第六世巧如上人　永享十二年諱玄康號證入定闍法印權大僧都　十月十四日

第七世存如上人　長禄元年諱圓兼法印權大僧都　六月十八日

第八世(中興)蓮如上人　明應八年諱兼壽號信證院法印大僧都　三月廿五日諡號慧燈大師

第九世實如上人　大永五年諱兼光號教恩院法印權大僧都　二月二日

第十世證如上人　天文廿三年諱文光教號信受院法印權大僧正　八月十三日

第十一世顯如上人　文禄元年諱光佐號信樂院法印權僧正　十一月廿四日

第十二世准如上人　寛永七年諱永光昭號信一光院法印大僧正　十一月三日

第十三世良如上人　寛文二年諱文光圓號教興院法印大僧正　九月七日

第十四世寂如上人　享保十年諱享光常號信解院法印大僧正　七月八日

第十五世住如上人　元文四年諱文光澄號信順院法印大僧正　八月六日

第十六世湛如上人　寛保元年諱保光啓號信曉院法印大僧正　六月八日

第十七世法如上人　寛政元年諱政光闡號信慧院法印大僧正　十月廿四日

第十八世文如上人　諱光暉號信入院法印大僧正　寛政十一年六月十四日

第十九世本如上人　諱光橋號信乘院信樂院長子法印大僧正　文政九年十二月十二日

第二十世廣如上人　諱光澤號信法院法印大僧正　明治四年八月十九日

大谷派(第十一世迄ハ本願寺派ニ同シ)

第十二世教如上人　諱光壽號信乘院信樂院長子法印大僧正　慶長十九年十月五日

第十三世宣如上人　諱光從號東泰院法印大僧正　萬治元年七月廿五日

第十四世琢如上人　諱光淳號淳寧院法印大僧正　寛文十一年四月十四日

第十五世常如上人　諱光泥號泥洹院法印大僧正　元禄七年五月廿二日

第十六世一如上人　諱光海號无礙院法印大僧正　元禄十三年四月二日

第十七世眞如上人　諱光性號功德聚院法印大僧正　延享元年十月二日

第十八世從如上人　諱光清號淨光院法印大僧正　寶暦十年七月十一日

第十九世乘如上人　諱光觀號觀喜光院法印大僧正　二月廿二日

第二十世達如上人　諱光覺號無上覺院法印大僧正　慶應四年十一月四日

第二十一世嚴如上人　諱光勝號眞無量院　明治十七年一月十五日

○眞宗相承及教典

(一)眞宗相承祖師

釋迦牟尼佛

印度　龍樹(佛滅後七百年南印度ニ出ツ)

仝　天親(佛滅後九百年北印度ニ出ツ)

支那　曇鸞(後魏承明元年ニ生レ東魏興和四年ニ寂ス)

仝　道綽(後周保定二年ニ生レ廣大宗貞觀十九年ニ寂ス)

仝　善導(隋煬帝大業十九年ニ生レ唐高宗永隆二年ニ寂ス)

日本　源信(惠心僧都ト稱シ延喜十二年生永觀三年寂ス)

仝　源空(淨土開祖法然上人即チ圓光大師ニシテ實ニ見眞大師ノ師ナリ長承二年生建暦二年寂壽八十歳)

以上之ヲ七祖ト稱ス

(二)眞宗所依教典

眞宗所依ノ教典ハ經論釋ノ三種アリ即チ左表ノ如シ

- 經(即淨土三部經)
  - 無量壽經(大經)
  - 觀無量壽經(觀經)
  - 阿彌陀經(小經)
- 論
  - 十住毘婆沙論易行品(龍樹作)
  - 淨土論(天親作)
- 釋
  - 淨土論註(曇鸞作)讃阿彌陀佛偈(仝上)
  - 安樂集(道綽作)
  - 觀經疏、即玄義分、序分義、定善義、散善義、(善導作)
  - 淨土法事讃、往生禮讃、般舟讃、觀念法門、(仝上)
  - 往生要集(源信作)
  - 選擇集(源空作)

宗祖大師及中興蓮如撰述左ノ如シ

- 教行信證文類 六卷
- 文類聚鈔 一卷
- 愚禿鈔 二卷

宗祖大師撰述

- 入出二門偈 一卷
- 和讃 三帖
- 三經往生文類 一卷
- 尊號眞像銘文 一卷

中興蓮如撰述

- 御文 五帖
- 正信偈大意
- 教行信證大意等

○眞宗統計

寺院 一万九千百九十六ヶ寺 (明治廿四年調査)

佛教各宗寺院總計七万千八百五十九ヶ寺ニ比スレハ眞宗ハ其百

分ノ二十六・七ニ當ル

住職　一万六千七百八十四ヶ寺（仝上）

佛教各宗住職總計五万二千五百十一人ニ比スレハ眞宗ハ其百分ノ三十二ニ當ル

管長　十管長

教師　一万二千百三十七人

各府縣眞宗寺院一覽表左ノ如シ

東京	二七九	神奈川	一二四	埼玉	二六
茨城	一三四	栃木	四二	群馬	二二
山梨	九九	靜岡	九七	愛知	九五九
岐阜	一〇二八	滋賀	一六二二	福井	八五六
富山	一一八八	新潟	一二五七	福島	九五
山形	二〇四	秋田	一七二	岩手	六四
京都	四八三	大阪	一三六四	奈良	六四四
兵庫	八七五	岡山	九八	廣島	七一九
島根	五〇四	鳥取	四二	德島	八〇
愛媛	九九	高知	七四	長崎	一一三
福岡	八〇七	熊本	六六五	大分	五七九
鹿兒島	三二	沖縄	一	北海道	六四
千葉	三五	長野	二四六	三重	八一六
宮城	五五	石川	八八三	宮崎	二八〇
佐賀	六三	香川	二三二	山口	六四四
和歌山	三二四	總計	一九一四六		

眞宗哲學序論

井上圓了述

第一段　端緒論

第一節　發端

第二節　本篇起草ノ旨趣

第三節　護國愛理ノ二大義務

第四節　眞宗哲學講究ノ必要

第五節　本篇論述ノ順序

第一節　隣村ニ大火アリ延テ我村ニ及ハントス而シテ全村皆我親戚朋友ナレハ誰レノ家ヲ燒失スルモ我

家ヲ燒失スルニ異ナラス故ニ一家ヲ擧ケテ出テヽ力ヲ消防ニ盡クシ幸ニ親戚朋友ヲシテ無難ナラシムルヲ得タルモ歸リテ我家ニ至レバ火片飛ヒテ其家ニ落チ全棟已ニ猛焰ノ中ニアルヲ見ル是ニ於テ一家ノ失望一方ナラス啻ニ其財産ヲ燒失セルヲ遺憾トスルノミナラス後日世間ノ笑柄トナランヿヲ恐ル是レ余カ一夜ノ夢ノミ醒メテ頭ヲ擧クレハ一家異狀ナシ是ニ於テ余ハ其全ク夢中ノ妄見ナルヲ知ル然リ而シテ今日我宗教界ノ事情ヲ觀察スルニ稍之ニ類スルモノアルヲ見ル近世文明ノ烈火一タヒ歐米諸國ニ發シ尋テ

我邦ニ入リ百般ノ事物之ニヨリテ忽チ類燒シ其猛勢當ルヘカラス我舊時ノ文物ノ如キ一朝ニシテ灰燼ニ屬サントシ其餘焰延テ我佛教ノ上ニ及ホシ諸宗共ニ實ニ危急ノ際ニ迫マリ是時ニ方リテ佛教中ノ諸宗諸派ハ皆是レ同胞兄弟ナレハ眞宗ノ門下ニ住スルモノニシテ諸宗ニ先チテ外難防禦ニ全力ヲ盡クシ道理ニ考ヘ事實ニ照シ佛教ハ文明社會ノ宗教、學術世界ノ哲學ナルヿヲ證明シ世間亦已ニ之ヲ是認スルニ至レリ是レ恰モ一村ヲシテ無難ナラシメタルニ異ナラス而シテ顧テ眞宗其物ヲ見レハ聖道諸宗ハ此盡力ニヨリ

テ文明學術ノ宗教トナルヲ得タルモ獨リ淨土諸宗ハ之レカ爲メニ却テ下等愚民ノ宗教ニ陷ルニ至レリ果シテ然ラハ佛教ノ危難ヲ救ヒタルモノハ眞宗ノ人ニシテ眞宗ノ危難ヲ招キタルモノモ亦眞宗ノ人ナリト云フモ豈敢テ過言ナランヤ是レ恰モ親戚ノ火難ヲ救テ自家ノ燒失ヲ知ラサルモノニ異ナラス余ハ啻ニ之ヲ眞宗一家ノ不幸トスルノミナラス眞宗門下ノ人ノ他日世間ノ笑ヲ招カンヿヲ恐ルヽナリ是ニ至テ之ヲ觀ルニ余ガ一夕ノ夢想ハ全ク睡眠中ノ妄見ニアラサルカ如シ蓋シ余ハ此夢ノ因緣ニヨリテ本篇ヲ起草ス

ルニ至レリ故ニ其事ヲ冒頭ニ掲ケテ本論ノ發端トナス

第二節　近年我邦ノ佛教ト西洋ノ學術トヲ比較シテ佛教ハ哲學上ノ宗教ナリト論シ耶蘇教ノ妄說ト同一視スヘカラスト唱ヘタルモノハ果シテ誰ソヤ蓋シ世間其人多キモ余モ亦其一人ナレハ其結果他宗ヲ助ケテ眞宗ヲ害スルニ至リタルノ責ハ獨リ之ヲ他人ニ歸スヘカラス余モ固ヨリ其一部分ヲ負ハサルヲ得ズ抑モ余ガ先年淺學ヲ揣ラス天下ニ先チテ破邪顯正ヲ唱道シタルハ當時世間ニアリテ苟モ多少ノ學識ヲ有ス

ルモノハ皆佛教ヲ目シテ妄誕不經ノ說トナシ蠻民愚俗ノ教トナシ之ヲ傳道スル僧侶ハ勿論、之ヲ奉信スル徒迄モ擯斥セントスル勢ナリシニヨル而シテ當時佛教ノ門内ニアルモノハ頑眠迷夢ノ間ニ彷徨シテ未タ文明ノ新天地ヲ知ラサリシヲ以テ世間ヨリ如何ニ擯斥セラルヽモ五里霧中ニ經過シ去ラントセリ余此ニ於テ憤然トシテ志ヲ立テ日夜佛教ノ探究ニ拮据シ其教内ニ眞理ノ寶珠ヲ胚胎セルヲ發見シテ以來、余カ平素ノ赤心之ヲ秘藏スルニ忍ヒス微力ヲ奮テ之ヲ天下ニ發表シ以テ内ニハ僧家ノ不學ヲ呵責シ外ニハ世間

ノ無識ヲ喚起シ佛教界内ニ學術講究ノ新道ヲ開鑿セリ即チ佛教活論是レナリ而シテ其論ハ余ガ眞理ヲ愛シ國家ヲ思フノ衷情ヨリ流レ出テタルモノナレハ佛教中更ニ宗派ノ異同ヲ問ハス苟モ多少ノ眞理ヲ包有セルモノハ盡ク之ヲ啓發シテ廣ク其光輝ヲ天下ニ放タシメンヿヲ目的トセリ故ヲ以テ當時一宗一派ノ小利害ヲ顧ルノ暇アラサリキ然レ𪜈余ガ意敢テ眞宗ヲ道理城外ノ塵芥中ニ捨ツルノ意ナランヤ已ニ活論序論中ニ於テ聖道淨土ノ二門ヲ比較シテ聖道門ハ智力的宗教ニシテ淨土門ハ感情的宗教ナリ其一ハ智者學

者ニ適シ其二ハ愚夫愚婦ニ適スト說キタルモ其後更ニ其意ヲ敷衍シテ佛敎ノ本躰ハ智力的宗敎ナレハ縱令淨土門ノ如キハ感情ノ性質ヲ帶フルモ恰モ智力ノ骨髓ヲ覆フニ感情ノ皮肉ヲ以テシタルニ過キス其敎理ハ固ヨリ餘宗ト同シク道理ヲ以テ講究スヘキモノナルヿヲ論シ來リテ佛敎ノ淨土門ト耶蘇敎ノ敎理ト同日ノ比ニアラサル所以ヲ證セリ故ニ余ハ決シテ眞宗ヲ以テ單ニ下等愚民ノ宗敎ナリト信スルモノニアラス然ルニ淨土門中ニアリテ眞宗ノ敎義ヲ傳フルモノ陽ニ佛敎ハ學術上ノ眞理ナリト唱ヘナカラ陰ニ眞

宗ノ哲理ニ合セサルヿヲ許スガ如キ風アリ其故ハ余近頃眞宗僧侶ノ公衆ニ對シテ演說スル所ヲ聞クニ或ハ法躰恒有ト題シ或ハ三界唯心ト題シ或ハ賴耶緣起、或ハ眞如緣起ト題シテ喋々聖道諸宗ノ哲理ヲ辨明シ去リテ復タ餘蘊ナク實ニ人ヲシテ其高妙ニ感セシムルモ淨土一門ノ敎義ニ至リテハ其人ノ演說中一言半語ノ之ニ及フヿナシ而シテ轉シテ愚夫愚婦ノ前ニ至レハ演說忽チ變シテ說敎トナリ眞宗一流ノ安心ヲ述ヘ他力成佛極樂往生ノ道ヲ說キ來リテ盡クサヽル所ナシト雖モ更ニ學理ニ關シテ其宗義ヲ論明スルニアラ

ス說教ト演說トハ何ンゾ此ノ如キ徑庭アルヤ說教ハ愚者ヲ目的トシ演說ハ智者ヲ目的トスルニヨルカ然ラハ何故ニ眞宗ノ教理ヲ演說壇上ニ於テ學理ニ照シテ一々論明セサルヤ是ニ由テ之ヲ考フルニ眞宗ノ僧家自ラ其宗ハ愚俗淺近ノ宗教ナレハ智者學者ノ前ニ講述スヘカラサルモノト信スルガ如シ是レ余ガ深ク怪ム所ナリ他日顯正活論ノ眞宗篇ヲ講述スルニ及ヒ其教理ノ學理ニ基クヿヲ辨明セント欲スルモ今日ノ勢一日モ早ク其哲理ヲ世間ニ報道セサルヲ得サル場合ニ至リタレハ即時ニ余ガ思フ儘ヲ筆シテ一小册子

トナス即チ此書ナリ之ヲ總題シテ眞宗哲學ト名クルハ淨土門ノ智力ノ骨髓ト感情ノ皮肉トノ組織中ヨリ特ニ骨髓ノ部分ヲ取リ出シテ眞宗一家ノ原理ヲ論定センヿヲ試ミタルニヨル而シテ其原理ハ即チ淨土諸宗ノ原理ナレハ眞宗哲學ト題スルモ其實淨土門哲學ナリ故ニ若シ之ヲ講述シ終レハ更ニ其原理ヨリ分派セル眞宗一家特有ノ諸說ヲ一々證明セサルヘカラス是レ實ニ眞宗哲學ノ本論ニシテ余カ他日起草セント欲スル所ナリ故ニ今其本論ニ對シテ此篇ヲ眞宗哲學序論ト題スルナリ

第三節　此ノ如ク眞宗哲學ヲ講究スルニ序論ト本論トヲ分チ序論ハ淨土門一般ノ原理ヲ總說シ本論ハ眞宗一家ノ組織ヲ別述スルヲ期スルモ其實哲學上ノ講究ハ主トシテ此原理ノ上ニアリ若シ其細目ニ至リテハ一宗所立ノ規則制度ニ關スルヲ以テ理論ヨリハ寧ロ實際ニ屬スル問題ナリ換言スレハ哲學ヨリハ寧ロ單純ノ宗教ニ屬スル部類ナリ智力ノ骨髓ヨリハ寧ロ感情ノ皮肉ニ屬スル部分ナリ然ルニ今日世間ノ論者ハ一般ニ宗教ノ實際ハ佛教諸宗中眞宗ニ過キタルモノナキヲ許スモ獨リ理論上ノ講究ニ至リテハ眞宗ヲ

擯斥シテ遙ニ他宗ノ下ニアリトナス故ニ余ガ特ニ此ニ證明ヲ要スル點ハ理論上ノ原理ニアルヿ明カナリ是レ余ガ多忙ノ際、此一篇ヲ論述スルニ至リタル所以ナリ凡ソ余ガ畢生ノ志願ハ世間已ニ知ルガ如ク國家ヲ護シ眞理ヲ愛スル二大目的ヲ達スルニ外ナラズ今眞宗ハ實際上國家ノ隆運ヲ補翼スルニ適スル宗教ナルヿハ世間已ニ之ヲ許ス以上ハ余ハ更ニ理論上其原理ノ講究スヘキ價値アルヿヲ世人ニ報道スルヲ以テ余カ第二ノ目的タル眞理ニ對スル本務ナリト信ス余ハモト眞宗ノ家ニ生レシモ維新以後、社會ノ事情ヲ觀

察スルニ及ヒテ以爲ラク今日ハ佛教ノ全家將ニ顚覆セントスル時ナリ豈一宗一派ノ隅位ニ立チテ一小柱石ヲ支フルニ汲々スルノ時ナランヤ寧ロ局外ニ出テ、佛日回天ノ功ヲ立ツルニ若カスト而シテ又近年泰西ノ實況ヲ見聞スルニ及ヒ國家將來ノ獨立ノ難キヲ感ジ余輩苟モ此國ノ人民タル以上ハ國家百年ノ大計ヲ立テザルベカラザルヲ知リ進テ少年教育ノ道ニ當リ國家有爲ノ人物ヲ養成スルヲ以テ之ヲ任ジ天下公衆ニ對シテ人世ノ義務ハ護國愛理ノ外ニ出デザル所以ヲ唱道シ先キニ佛教活論ヲ著ハシテ其赤心ノアル

所ヲ發表セリ故ニ余ガ此ニ眞宗哲學ヲ講述スルハ眞宗一局部ノ爲メニ思フ所アリテ然ルニアラズ余ガ平素懷抱セル護國愛理ノ一念溢レ出デテ此ニ至ルナリ眞宗已ニ哲理ノ講究スベキモノヲ有シテ世間之ヲ知ラザルヽハ苟モ學術ニ志アルモノ豈默々ニ經過シ去ルニ忍ンヤ又此ノ如キ眞理ヲ含有スル宗旨カ我邦ニ開立セル新宗ニシテ我多數人民ノ奉信スル宗教ナルヲ知ルヽハ苟モ國民タルモノ國家ノ爲メニ豈之ヲ不問ニ付スルヲ得ンヤ今余ハ此精神ヲ以テ眞宗ヲ論評スルモノナレバ自然ニ一宗一派ノ局位ニアリテ講究

スルモノト其意見ヲ異ニスル所アルヘシ且ツ余カ目的ハ眞宗門外ノ人ニ其哲理ノ一斑ヲ示スニアレハ務メテ世間ノ學術上ニ用ヒ來レル文字ヲ以テ說明シ眞宗一家相傳ノ語法ニ倣ハサルモ是レ亦已ムヲ得サルナリ

第四節　先ツ余カ眞宗哲學講究上ニ於テ局位ニアル二三ノ論者ト意見ヲ異ニスル點ヲ述フヘシ其論者ハ近年佛教ヲ學術上講究スルノ風行ハレテ以來聖道門諸宗ノ教理ハ大ニ利益ヲ得タルモ眞宗ノ教理ニ至テハ却テ不利ヲ感スルヲ見テ曰ク宗教ハ理外ノ理ナリ

哲學ヲ以テ是非ヲ判スヘキニアラス佛教ハ佛教ナリ哲學ハ哲學ナリ此二者豈混同スヘケンヤト是レ眞宗ヲ愛念スル赤心ヨリ出テタルモノナレハ其衷情誠ニ嘆稱スヘシト雖モ畢竟論者ハ哲學ハ西洋一種ノ學ニシテ佛教ト全ク關係ヲ異ニスルモノト偏信シ哲學ヲ以テ佛教ヲ論スルハ寒暖計ヲ以テ物ノ寸尺ヲ計ラントスルカ如ク想像スルニヨル然ルニ哲學ハ道理思想ノ學ニシテ諸學ノ眞理ヲ判定スル學ナリ故ニ佛教ニテモ儒教ニテモ道理上苟モ其眞理ヲ論定セント欲スレバ必ス哲學ノ講究法ニヨラサルヘカラス恰モ西洋

ニテ空氣ノ溫度ヲ計ルニ寒暖計ヲ要シ我邦ニテ空氣ノ溫度ヲ計ルニ同ク寒暖計ヲ要スルニ異ナラス縱令其空氣ハ東西各異ナルモ其溫度ヲ計ルニ寒暖計ヲ要スルハ東西同一ナリ今哲學ハ諸學諸敎ノ眞理ノ溫度ヲ測定スル寒暖計ナリ佛敎全躰ノ眞理ヲ判定スルニモ此學ヲ要スルナリ若シ佛敎家ニシテ哲學ヲ用ヒサルトキハ何ヲ以テ其敎ト他敎トノ優劣ヲ判センヤ眞宗論者ニシテ哲學ニヨラサルトキハ何ヲ以テ其宗ト餘宗トノ長短ヲ定メンヤ然ルニ眞宗學者ハ誰レニテモ必ス我宗ノ

敎義ハ眞理ナリ耶蘇敎ハ眞理ニアラスト自ラ信シ又人ニ公言スルニアラズヤ是レ表面ニ哲學ヲ排斥シナガラ裏面ニ哲理ヲ應用スルモノト謂フヘシ若シ又眞宗學者ニシテ眞宗ノ學ハ哲學上講究スヘカラサルモノナリト云フトキハ是レ眞宗ハ道理ニヨリテ論究スヘカラサルモノト自ラ許スニ異ナラス語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ眞宗ハ道理智力ノ宗敎ニアラスト自ラ信スルモノナリ果シテ然ラハ世ノ文明ハ道理ノ文明ニシテ其進歩ノ目的ハ今日ノ世界ヲ一變シテ道理ノ世界トスルニアレハ眞宗ノ敎義ハ文明ノ進歩ニ伴フヿ能ハ

サルモノト云ハサルヘカラス是レ豈眞宗其者ノ性質ナランヤ且ツ余カ視ル所ニヨルニ眞宗ハ哲學上講究スヘキ全然ノ眞理ヲ含有スルヲ知ル然ルニ此眞理ヲ冥々ノ中ニ埋メ置キテ世間ヨリ眞宗ハ愚俗ノ宗教ノミ不道理ノ妄說ノミトノ批評ヲ來スモ更ニ顧ミサルカ如キハ是レ果シテ眞正ノ護法家ト稱スヘキヤ

第五節　余ハ斯ク眞宗哲學講究ノ必要ヲ唱フルモ敢テ猥リニ哲學上ヨリ眞宗ヲ論評シテ其一家所立ノ教義ヲ破壞セントスルニアラス世ノ論者ハ學理上眞宗ヲ論究スルキハ聖道門ノ哲理ヲ直接ニ其宗門ノ上ニ

應用シ一宗ノ骨髓タル原理ヲ破壞シ去リテ曰ク是レ眞宗ノ哲理ナリト即チ眞宗ノ阿彌陀佛ノ如キ西方極樂ノ如キ之ヲ眞如唯心ノ理ヲ以テ解釋セントスルモノ是レナリ余ガ眞宗ヲ論スルハ縱令哲學上ノ講究ニヨルモ決シテ此ノ如キ破壞主義ヲ取ルニアラス眞宗ヲ其開立以來用ヒ來レル基礎ノ上ニ建設セントスルニアリ今之ヲ論述スルニ當リ先ツ哲學一般ニ用フル原理ヲ論究シ之ヲ佛教ノ上ニ照合シ來リテ佛教總躰ノ原理ヲ論定シ是レヨリ淨土一門、眞宗一家ノ原理ヲ審定セントス故ニ其順序左ノ三段ニ分ル

(一) 哲學原理
(二) 佛教原理
(三) 眞宗原理

斯クシテ哲學上ノ原理ヲ論定シ終レハ眞宗實際上ノ組織ニ涉リ一二言ヲ加ヘテ是一篇ヲ結ハントス而シテ其原理論ノ如キモ他日眞宗哲學本論ヲ起稿スル意アレハ其方ニ餘地ヲ與ヘンガ爲メニ今ハ唯其要點ノミヲ論述スルモノト知ルヘシ

第二段 哲學原理論

第六節 哲學上ノ大難問
第七節 二樣並存一躰兩面ノ眞理
第八節 此眞理ノ證明法
第九節 哲學諸論ノ調解
第十節 宗教諸說ノ一致

第六節 南窓風清ク氣朗カナルノ處、靜坐沈思シ理想ノ望遠鏡內ニ現見スル古今東西ノ哲學諸家ノ光景ヲ觀察スルニ各一家ノ卓見ヲ出シ異論百端相爭フテ今日ニ至リ未タ之ヲ統一セル學說アルヲ見ス是レ眞ニ統一スヘカラサルモノナルヤ將タ將來果シテ統一ス

ヘキ日アルヤ未タ判定スヘカラスト雖モ其異說ノ由リテ分ルヽ所以ヲ探求スルニ哲理ニ二樣ノ相反スルモノアリテ之ヲ合一スルヿ難キニ起源セサルハナシ其二樣トハ理論實際ノ相反ナリ主觀客觀ノ相反ナリ思想感覺ノ相反ナリ有形無形ノ相反ナリ本躰現象ノ相反ナリ絕對相對ノ相反ナリ可知不可知ノ相反ナリ有限無限ノ相反ナリ單一雜多ノ相反ナリ平等差別ノ相反ナリ例ヘハ古來ノ學者カ理論ノ一方ヨリ論究シテ其原理ヲ發見シ之ヲ實際ニ應用セント欲シテ適合スヘカラサル所アルヲ見ルハ即チ理論實際ノ相反ニ

アラスヤ政治ニテモ道德ニテモ宗教ニテモ理論上ヨリ論定セルモノト實際上ニ應用セルモノト常ニ相合セサルハ皆此理ニヨル理論上論定スル所ノ神ト實際上應用スル所ノ神ト一致セサルモ亦然リ實際上ノ神ハ理論ニ入リテ其形ヲ失ヒ理論上ノ神ハ實際ニ來リテ其性ヲ變スルハ全ク理論實際ノ性質互ニ相反スル所以ヲ示スモノナリ之ヲ心理ノ上ニ考フルニ感覺上ノ境遇ト思想上ノ觀念ト一致セサル所アリテ感覺上ヨリ論スルモノハ客觀界ニ千差萬別ノ現象アルヲ見、思想上ヨリ論スル者ハ主觀界ニ單一平等ノ理躰アル

ヲ想スルニ至ル而シテ客觀上ノ現象ハ彼我自他ノ相對ヨリ成リ我智力ニヨリテ識量スヘキモ平等無差別ノ本躰ニ至リテハ實ニ絶對無限ニシテ全ク人智ノ外ニアリ即チ所謂不可知的ナリ其中本躰論者ハ平等單一ノ道理アルヲ知ルモ其理ヨリ萬差ノ諸象ノ開發現立スル所以ヲ解スル能ハズ又現象論者ハ萬差ノ諸象ノ實在並存ヲ知ルモ其裏面ニ一理ノ普遍スルアリテ差別ヲ見サル所以ヲ解スル能ハズ是レ哲學上古來ノ大難關ニシテ如何ナル哲學者モ此二樣相反ノ理ヲ統合スルニ苦ム所ナリ若シ之ヲ理論實際ノ相反ノ上ニ

考フルトキハ其平等ノ理法ハ理論上ヨリ知ル所ニシテ差別ノ現象ハ實際上ニ於テ見ル所ナリ故ニ以上擧クル所ノ種々ノ相反ハ要スルニ一對ノ相反ニ外ナラス古來經驗論ト本然論ノ相合セサル先天論ト後天論ノ相合セサル主觀論ト客觀論ノ相合セサル直覺教ト功利教ノ相合セサル有神說ト無神說ノ相合セサル進化主義ト退化主義ノ相合セサル演繹論法ト歸納論法ノ相合セサル宗教ト哲學ノ相合セサル之ヲ歸スルニ皆其根本ノ原理トスルモノニ二樣相反ノ理ヲ有スルニヨル此相反ノ一致統合ヲ計ルハ獨リ古來ノ論題ナリ

シノミナラス亦將來ノ疑問ナリ

第七節　余ハ數年前ヨリ哲學ヲ專修シ夙ニ此疑問ノ一大惑星アリテ哲學世界ノ中天ニ懸ルヲ見テ其講究日尙ホ淺シト雖モ靜カニ理想ノ鏡面ヲ拂ヒ半夜天心ノ澄ミ度ルニ際シ意ヲ觀測一方ニ注キ稍惑星ノ眞相ヲ發見スルヲ得タリ是レ實ニ哲學ノ難關ヲ開クヘキ要鑰ナリト自ラ信スル所ナリ即チ平等差別二樣並存ノ理是レナリ從來ノ學者ハ其二樣ノ中獨リ一方ノ理ニヨリテ飽マテ他方ヲ會通シ去ラント試ミシヲ以テ遂ニ一致統合ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハサリキ是レ

畢竟一方ノ偏見僻說ニ過キサルナリ已ニ二樣並存スル以上ハ一方ヲ以テ他方ヲ會通シ去ル能ハサルハ當然ノ理ニシテ毫モ怪ムニ足ラス又古來ノ學者飽マテ一方ニヨリテ其理ヲ貫徹セント欲シテ未タ一人ノ其目的ヲ達セサリシハ即チ二樣並存ノ理ヲ證明セルモノニ外ナラス余ハ是ニ於テ二樣並存ノ哲學上ノ眞理ナルヲ知ル然ルニ古來ノ學者カ二樣並存ヲ許サヽリシハ眞理ニ二途ナキヿヲ信セシニヨル余モ眞理ニ二致ナキヲ信スルモノナレ𪜈二樣並存ノ理ハ決シテ眞理其躰ニ二樣アルヲ云フニアラス一躰ノ眞理ニシテ

二樣ノ道理ヲ具有スルヲ云フ恰モ一物ニ表裏兩面ヲ具有スルカ如シ表裏兩面アルハ其躰二樣アルニヨルニアラス一躰ノ物ニシテ唯其外面ニ二樣ヲ示スノミ今哲理モ之レト同一ノ關係ヲ有シ表面ニ差別ノ現象ヲ示シ裏面ニ平等ノ理法ヲ具シ而シテ其躰同一ナリ之ヲ或ハ一理、萬象ヲ離レス萬象、一理ヲ離レスト云ヒ或ハ平等、差別ヲ離レス差別、平等ヲ離レスト云フ其意一躰ニシテ兩面ヲ具シ兩面ニシテ一躰ニ依ルヲ義トス故ニ或ハ此關係ヲ一ニシテ同時ニ二ナリ二ニシテ同時ニ一ナリト云フモ可ナリ此一躰兩面ノ關係ハ實

ニ哲理ノ極致ニシテ諸法ノ至理ナリ古來哲學上ノ相反問題ノ難關ハ一タヒ此理ニ照合シ來ラハ忽チ會通シ去ルヿヲ得ヘシ是レ實ニ哲學界ノ關門ヲ通過スヘキ鑑札ト名クルモ不當ノ稱ニアラサルナリ

第八節　此鑑札ヲ證明スル方法ニ二樣アリ其一ハ事實ノ上ニ考フル法ニシテ之ヲ歸納的、若クハ後天的證明法ト云フ其二ハ理論ノ上ニ考フル法ニシテ之ヲ演繹的、若クハ先天的證明法ト云フ先ヅ後天的證明法ニヨルニ人類ニ老少男女彼我自他ノ差別アルモ若シ其人類ノ人類タル理法ニ至リテハ唯平等ノ一理アルヲ

見ルノミ又人類ト禽獸草木ヲ較スルニ其間畫然タル區域アルモ生物ノ生物タル理法ニ至リテハ人獸共有動植一致ノ平等ノ一理存スルヲ見ルノミ更ニ日月星辰山川土石ヲ較スルモ同一ノ關係ノ其間ニ存スルヲ見ル而シテ此差別平等ノ二者共ニ一物一類ノ上ニ並存スルヿハ毫モ表裏兩面ノ一物躰ノ上ニ存立スルニ異ナラス果シテ然ラハ差別ノ現象獨リ實ニシテ平等ノ理法全ク虛ナルカ平等ノ理法獨リ眞ニシテ差別ノ現象全ク妄ナルカ二者中孰レヲ取ルモ其關係ヲ明示スルヿ難シ是レ畢竟二樣並存一躰兩面ノ眞理ヲ證明

スルモノニアラスシテ何ソヤ是ニ由テ之ヲ觀ルニ一躰兩面ノ眞理ハ實ニ宇宙ノ大法ニシテ萬有ノ通則ナルヿ明カナリ次ニ先天的證明法ニヨルニ人智ハ彼我自他ノ差別ヨリ成リ右ヲ知ルハ左アルニヨリ溫ヲ知ルハ冷アルニヨリ富貴ヲ知ルハ貧賤アルニヨル之ヲ相對ノ智識ト云フ人智果シテ相對ナラハ相對差別ノ境遇其者ヲ知ルニハ之レニ相對スル絕對平等ノ本躰ナカルヘカラス即チ我智力ガ相對ノ性質ヲ有シナガラ相對ノ外ニ絕對ヲ知ルヿヲ得ルハ絕對ハ相對ニ對シ相對ハ絕對ニ對シ二者並存相對ナルニヨル他語ニ

テ之ヲ言ヘハ平等ハ差別ニ對シ差別ハ平等ニ對シ二者ノ間ニオノヅカラ相對差別アリテ並存兩立スルニヨルモノナリ故ニ絶對相對ノ二法即チ平等差別ノ二樣ハ必ス並存兩立セサルヘカラス而シテ此二者兩立スルモ其躰別ナルニアラス若シ果シテ其躰別物ナルヤハ我人差別相對ノ境遇ニアリテ絶對平等ノ本躰ヲ知量スヘキ道理アルヘカラス然ルニ我人ハ差別ノ境遇ニアリテ平等ノ理法ヲ知リ相對ノ智力ヲ以テ絶對ノ本躰ヲ識ルハ平等ハ差別ヲ離レス差別ハ平等ヲ離レス相對絶對二樣同躰ナル所以ヲ證見スルモノナリ

故ニ二樣並存一躰兩面ノ眞理ハ實ニ諸學諸法ノ原理原則ナルヿ豈疑ヲ容レンヤ

第九節　以上先天後天ノ二法ニヨリテ哲理ニ二樣アル所以ヲ知レハ此理ニヨリテ古來哲學諸家ノ異說ヲ統合調解スヘキ所以ヲ知ルヿヲ得ヘシ例ヘハ此ニ甲論起レハ必ス之ニ反スル乙論起リ此ニ甲乙兩論ヲ合シタル丙論起レハ亦必ス之ニ反スル丁論起ルヘシ是レ即チ哲理ニ二樣アルニヨル而シテ哲學上ノ爭論ハ常ニ此相反ノ點ノ永ク一致スヘカラサルモノト偏信スルヲ以テ調和シ難キナリ若シ其二樣相反ノ理ノ一

躰兩面ノ關係ニヨリテ成リ甲論ノ裏ニハ乙論アリ丙論ノ裏ニハ丁論アリテ此二論ハ一理一躰ノ上ニ成立セル所以ヲ知ルニ至レハ容易ク和解スルヿヲ得ヘシ今其理ヲ近ク男女同權論ノ上ニ考フルニ同權獨リ眞理ニアラス異權獨リ眞理ニアラス同權ノ裏ニハ異權ヲ具シ異權ノ裏ニハ同權ヲ存シ二論其致一ナルヿヲ知ルモノ是レ所謂一躰兩面ノ眞理ナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ平等ノ裏ニハ差別アリ差別ノ裏ニハ平等アリ二者其躰一ナリト知ルモノ是レ眞理ナリ此ノ如ク二樣相反ノ點ヨリ其一躰ノ理ニ躰達スル之ヲ中ト云

フ相反ノ一面ヲ知リテ他面ヲ知ラサル之ヲ偏ト云フ故ニ眞理ハ中ヲ得ルニアリ其中ニ亦絶對相對ノ二種アリ即チ人智ノ進歩ニ從フテ其位置ヲ變スルハ相對ノ中ナリ例ヘハ甲乙ノ間ニ存スル中、一歩進ンテ丙丁ノ間ニ存スルニ至ルカ如キ是レナリ若シ相對ノ中進ミ窮リテ絶對ノ中ニ達スレハ復タ變遷スルヿナシ縱令又相對ノ中ハ變遷スト云フモ若シ中ノ中タル所以ニ至リテハ始終一定シテ常ニ變遷スルヿナシ是レ相對ノ中ニ絶對ノ中ヲ具有スルニヨル先キニ所謂相對絶對同躰一理ナル所以ナリ其一理ナル所以亦之ヲ中

ト云フ中ノ上ニモ中アリ其中ノ上ニモ更ニ他ノ中アリテ是レヨリ以上際限アルヘカラスト雖モ中ノ中タル所以ニ至リテハ前後ヲ貫キテ唯一アルノミ是レ理論上ノ事ノミ若シ實際上ニアリテ考フルトキハ中モ必スシモ中ヲ得ルニアラス偏モ却テ中ヲ得ルヿアリ例ヘハ世論異權ノ一方ニ偏スルトキハ之ヲシテ其中ヲ得セシムルハ同權說ヲ主唱スルニアリ又世論同權ノ一方ニ偏スルトキハ異權ヲ唱ヘテ始メテ其中ヲ得ヘシ蓋シ世論常ニ權衡中正ヲ得ルモノニアラサレハ政教ヲ當時ニ布カント欲スルモノハ世論

ノ右ニ偏スルヲ見レハ左ヲ取リ左ニ傾クヲ見レハ右ヲ擇フヿアルモ其目的ハ常ニ中ヲ維持スルニ外ナラス故ニ理論上ニアリテハ差別ニ偏セス平等ニ偏セサルハ中ノ中タル所以ナレ𪜈時宜ニヨリテハ平等却テ眞理ナルヿアリ差別却テ眞理ナルヿアルヲ知ラサルヘカラス而シテ之レト同時ニ差別ノ裏ニ平等アリ平等ノ裏ニ差別アルヿヲ忘ルヘカラス之ヲ哲理ノ妙致トス蓋シ高妙ナル理想ノ望遠鏡ニヨルニアラサレハ其眞相ヲ直覺スルヿ能ハサルナリ

第十節　此ノ如ク二樣並存一躰兩面ノ眞理ハ實ニ哲

學上ノ膠漆ニシテヨク東西ノ異說ヲ接合スル「ヲ得ルノミナラス又宗教上ノ剪刀ニシテヨク古今ノ爭論ヲ裁斷スルヲ得ヘシ抑モ宗教ハ古來種々ノ宗派アリテ各其旨意ヲ異ニスルヲ以テ之ニ與フル義解一定セスト雖モ蓋シ世ニ人智ヲ標準起點ト定メテ研究スルモノト人智以外ノ絕對無限不可知的ノ本躰若クハ理性ヲ標準トシテ論定スルモノトノ二種アリ其一ハ學術ニシテ其二ハ宗教ナリ故ニ宗教ノ性質ハ人智以外ヨリ人智以內ニ及ホスモノナレ𪜈全ク人智ヲ以テ論究スヘカラサルモノニアラス唯人智ハ其躰ノ一面ヲ

知ルノミニテ他ノ一面ハ人智外ノ講究ヲ待タサルヘカラス故ニ古來宗教ニ自然顯示ノ二教ヲ分チ或ハ智力感情ノ二種ヲ分ツナリ自然教ハ人智自然ノ發達ニ伴フテ起ルモノナレハ道理ニヨリテ講究スヘキモ顯示教ハ聖賢神佛ノ啓示ニヨリテ起ルモノナレハ道理以外ニ屬スル所多シトス又智力的宗教ハ道理的宗教ヲ義トシ感情的宗教ハ想像的宗教ヲ義トスレハ其一ハ道理ニヨリテ講究スヘカラサルモノトス是ヲ以テ古來此二教相反ノ間ニ爭論ヲ起シ其調解ノ何レノ日ニ成ルヲ知ラサルナ

リ然レモ若シ前ニ擧クル所ノ二樣一躰ノ眞理ニヨリテ進行スルヰハ數千年來困難ヲ感シタル險道モ容易ク通過スルヿヲ得ヘシ先ツ智力的宗教ハ平等ノ道理ニ基キ感情的宗教ハ差別ノ境遇ニヨリテ組織セルモノナレハ二者一致合同スルヿ能ハサルカ如シト雖モ若シ平等差別其理一ナル所以ヲ知ルヰハ此二教ノ相離レサル所以、並一方獨リ眞理ニシテ他方全ク非眞理ナルニアラサル所以ヲ知ルヘシ又自然教ハ相對ノ人智ニヨリテ成リ顯示教ハ絶對ノ神智ニ基キテ起ルモノナレハ二者全ク相反スルカ如シト雖モ絶對ハ相對

ヲ離レス相對ハ絶對ヲ離レサル道理ニヨルヰハ其相反ノ點ノ一理ニ出ツル所以ヲ知ルヘシ然リ而シテ二樣並存一躰兩面ノ關係ノ眞理ナル所以ヲ知レハ完全ノ宗教ハ必ス自然顯示若クハ智力感情ノ一對相反ノ兩面ヲ兼有並存スルモノナラサルヘカラサル所以ヲ知ルヘシ即チ道理ニテ究メ盡クスヘカラサル所アレハ啓示ヲ以テ之ヲ補ヒ感情ニテ信シ難キ所アレハ智力ニテ之ヲ助ケ兩者相待チテ始メテ完全ノ宗教ヲ見ルヘシ若シ其一方ヲ有シテ他方ヲ有セサルモノハ偏頗不完ノ宗教タルヲ免レサルナリ之ヲ非眞理ノ宗教

トス何者兩者兼有ノ眞理ナルヲ知レハ一面偏有ハ眞理ニ反スレハナリ是レ余ガ曾テ佛教耶蘇教ノ上ニ眞非ノ裁決ヲ下シ佛教ハ兩面兼有ノ宗教ニシテ耶蘇教ハ一面偏有ノ宗教ナリト審判スルト同時ニ佛教ハ眞理ニシテ耶蘇教ハ非眞理ナリト論定シタル所以ナリ然リ而シテ余カ前節ニ述フルカ如ク一面偏有モ時宜ニヨリテハ眞理トナルヿナキニアラス即チ世教ノ權衡ヲ失フニ當リテハ智力的宗教ノ適スルヿアリ感情的宗教ノ適スルヿアリ然レモ耶蘇教ノ如キ本來一面偏有ヲ以テ組織セル宗教ハ時宜ニ應合スルヿ能ハサ

ルノミナラス感情ノ裏面ニ智力アリ啓示ノ裏面ニ道理アル所以ヲ對照スルヿ能ハサルモノナレハ斷言シテ眞理ノ範圍内ニ入ルヘカラス今佛教ニアリテハ兩面兼有ト同時ニ時宜ニ應合シテ其一方ヲ取リ又其裏面ニ存スルモノヲ對照並存シテ其中ヲ失ハサルヿヲ得ルヲ以テ宗教中ノ最モ完全ナルモノト謂フヘシ其果シテ然ルヤ否ハ余ガ正ク次段ニ述ヘントスル論題ナリ

第三段　佛教原理論

第十一節　佛教總說
第十二節　有空二門ノ大意
第十三節　中道ノ大意
第十四節　理論宗ノ批評
第十五節　實際宗ノ起原

第十一節　茫々タル哲學海上一夕風靜カニ波穩カナルニ會シ思想ノ大船ニ駕シ論理ノ長帆ヲ揭ケ左進右行スルノ際、遙カニ一點ノ微光ヲ烟波深キ處ニ見ルヲ得タリ是レ即チ佛教ノ陸端ナル燈臺ヨリ發シタル眞理ノ光輝ナリ錨ヲ投シテ上陸スレハ土地廣クシテ住

民多ク實ニ宗教世界無二ノ大國ナリ今余カ是レヨリ論述スル所ノモノハ即チ此大國ノ案內記ナリ先ツ其國內ノ區域都邑驛路ノ名稱順序ヲ說明スベシ凡ソ佛教ハ其說ノ深淺高下ニ應シテ小乘大乘ノ二部ニ分レ大乘亦權大乘實大乘ノ二段ニ分ル而シテ小乘ヲ有門トシ權大乘ヲ空門トシ實大乘ヲ中道トス其有トハ相對差別ノ現象ノ成立ヲ云ヒ其空トハ絕對平等ノ無現象ノ狀態ヲ云ヒ其中道トハ差別ノ中ニ平等ヲ存シ平等ノ中ニ差別ヲ存シ二者ノ中ヲ得ルヲ云フ即チ余カ先キニ所謂中是レナリ此中ヲ解シテ非有非空亦有亦

空ノ中道ト云フ其意中道トハ有現象ノ有ニアラス無現象ノ空ニアラス差別平等相對絶對並立兼有ノ中道ヲ義トス是レ所謂二樣並存一躰兩面ノ關係ヲ示スモノナリ其關係ヲ示スニ種々ノ語句アリテ或ハ眞如即萬法、萬法即眞如ト云ヒ或ハ相即不離融通無礙ト云フ眞如トハ平等ノ理躰ヲ義トシ萬法トハ差別ノ現象ヲ義トス其理躰ハ之ヲ理性ト名ケ其現象ハ之ヲ事相ト名ク理躰ト現象ノ同躰不離ナル關係ヲ示シテ眞如即萬法、萬法即眞如ト云ヒ理躰ノ中ニ現象ヲ存シ現象ノ中ニ理躰ヲ存シテ二者相通自在ナル狀態ヲ示シテ事

理無礙ト云フ是レ皆非有非空亦有亦空ノ中道ノ性質作用ヲ表現シタルモノナリ蓋シ佛教ノ眞理ハ此有空中三段ノ道理ノ外ニ出デス其中ニツイテ中道ヲ眞實トシ有空ヲ方便トス故ニ有門ノ小乘ハ方便ナリ空門ノ權大乘モ亦方便ナリ中道ノ實大乘獨リ眞實ナリ然レ𪜈有ノ裏ニ空アリ空ノ裏ニ有アリ有空ノ裏ニ中道アルヲ以テ其方便ハ全ク眞實ヲ離レタル方便ニアラス故ニ方便即チ眞實ナリト云フ是レ理論上ノ事ナリ若シ之ヲ實際ニ徵スルヽハ人ノ性質ト世ノ機運トニ應シテ有空ノ方便却テ中道ノ眞實ナルヿアリ例ヘハ

時弊差別ノ有ニ偏スルトキハ之ヲ正スニ無差別ノ空ヲ以テセサルヘカラサルカ如シ蓋シ一佛教中ニ小乘アリ大乘アリ有門アリ空門アリ諸説並存スルハ世ト人トノ事情ニ應シテ中道ノ權衡正平ヲ保持セントスルノ意ニ出テタルヤ疑ナシ以上ノ有空中三段ノ道理ニヨリテ組織シタル宗旨ハ倶舍宗、法相宗、天台宗等ナリ是レ皆理論宗ナレハ宜ク之ヲ智力的宗教若シクハ道理宗ト名クヘシ之ニ對シテ實際宗アリ即チ淨土宗、眞宗、禪宗、日蓮宗等是レナリ余ハ之ヲ顯正活論ニ於テ通宗ト稱セリ其中淨土宗、眞宗ハ之ヲ淨土門ト名ケ之ニ

對シテ自他ノ諸宗ハ總シテ聖道門ト名ク余ハ此二者ヲ實際的感情宗、實際的智力宗ト稱セントス畢竟スルニ佛教中ニ此二門兼備スルハ其完全ノ宗教ナル所以ニシテ二樣並存ノ眞理ニ適合スル所以ナリ

第十二節　此ノ如ク論定シテ是レヨリ理論宗ノ有空中三段ノ諸宗ニツイテ其大要ヲ略述スヘシ先ツ小乘倶舍宗ハ有門ニシテ現象差別ノ境遇ニアリテ組織シタル宗旨ナリ然レトモ若シ之ヲ世間ノ彼我差別ノ妄見ニ比スレハ一歩進ミタル差別論ニシテ通俗ノ妄見ヲ破リテ眞理ノ一部分ヲ示シタルモノナリ凡ソ世間ノ

妄見ハ人々各々ノ差別ヲ固執シ千萬無量ノ差別ヲ偏信スルモノナレ𪜈倶舍宗ニ於テハ七十五種ノ原理ヲ立テヽ千萬無量ノ差別ハ此原理ノ外ニ出テストナス之ヲ七十五法ト云フ此諸法ヲ大ニ別チテ有爲無爲ノ二法トナス有爲法トハ變遷生滅アルモノニ名ケ無爲法トハ其反對ニ名ク此二種ノ諸法共ニ其躰各恒存實在セルモノナリト說キ來リテ所謂法躰恒有說ヲ論定セリ故ニ其宗ハ猶ホ万有ノ差別ヲ立テ諸法ノ成立ヲ許スモノナレハ之ヲ有門ト名クルナリ若シ進テ權大乘ニ入レハ法相宗ノ唯識論ノ如キハ此差別ヲ空無ニ

歸シテ外界ノ現象ハ識心ノ作用ニ外ナラサルヿヲ示セリ之ヲ唯識所變ト云フ即チ識心ノ作用ヲ離レテ一物一現象ノ實存恒在スルヿナシトナス是レ其空門ノ名アル所以ナリ是レヨリ更ニ一歩ヲ進メテ實大乘ニ入リ其已ニ經過セル境遇ヲ回想スレハ小乘ハ有ニ偏シ權大乘ハ空ニ偏スルヲ見ル故ニ實大乘ニアリテハ其二者ノ中ヲ執リテ中道說ヲ唱フルニ至ル是レ實ニ佛教國ノ都城ナリ今此中道說ヲ論スルニ先チテ更ニ一言ヲ要スルヿアリ即チ法相宗ノ空門猶ホ差別ノ見ヲ脫セサルヿ是レナリ凡ソ其宗ニアリテハ百法即チ

百種ノ原理ヲ立テヽ唯識所變ノ理ヲ示スモノナレ𪜈其百法中ノ有爲法、即チ變遷生滅ヲ有スル諸法ハ識心中ニ阿賴耶識ト名クル一種ノ心躰アリテ其中ニ含藏セル種子ノ開發ニヨリテ現立スルモノナレハ其心躰ヲ離レテ一物ノ存スル「ナシト云フモ若シ變遷生滅ヲ有セサル無爲法ニ入レハ別ニ眞如ノ本躰アリテ諸法ハ此上ニ依立スルモノナリト云フ而シテ眞如ト阿賴耶識トハ其躰一ニシテ眞如ハ阿賴耶識ノ依立スル本躰ナリト說クモ有爲ノ諸法ハ眞如ヨリ開現スル「ヲ說カス之ヲ眞如凝然不作諸法ト云フ是ニ由テ之ヲ

觀ルニ法相宗ハ俱舍宗ノ差別論ヲ一變シテ有爲法ノ差別ヲ空無ニ歸シタルモ猶ホ有爲ト無爲ノ間ニ差別ヲ存シテ眞如開發ノ理ヲ說カサレハ是レ又差別論ノ一種タルヲ免レス然ルニ全ク此差別ヲ絕無ニ歸シタルモノハ別ニ三論宗アリ是レ空門中ノ空門ナリ此空ニ有ヲ兼說シテ正シク其中ヲ立テタルモノハ中道ノ諸宗ニ限ル

第十三節　中道ノ主義ヲ唱フルモノハ先キニ天台宗ナリト云ヒタルモ其他華嚴眞言等モ皆中道宗ナリ今法相宗ノ差別論ノ一變シテ中道論トナリタル順序ニ

ツイテ考フルヰハ先ツ起信論ノ說ヲ略言セサルヘカラス起信論ハ實大乘ニ入ルノ關門ニシテ眞如開發ノ理ヲ開示シタルモノナリ即チ法相宗ハ阿賴耶識ノ作用ヲ論スルノミニシテ未タ眞如ノ作用ヲ說カサレ𪜈起信論ハ直チニ眞如自躰ノ上ニ其作用ヲ說キテ一切有爲無爲ノ諸法ハ眞如開發ニ外ナラサル𠃊ヲ證明セリ此眞如開發說ハ實ニ佛敎ノ主眼ニシテ其耶蘇敎ト異ナル要點ナリ而シテ其論猶ホ未タ全ク差別ノ見ヲ脫スル能ハス何者眞如開發ノ前後ニ差別ヲ存シテ開發以前ト以後ト一致セサル所アリ是レ古來起信ノ難

問ト稱シテ學者ノ常ニ苦ム所ナリ即チ其疑問ハ開發以前ハ平等ノ一理アルノミニテ開發以後ニ差別ノ萬境ヲ現スルハ是レ一ヨリ偶然萬ヲ生シタル理ナリ其理解スヘカラスト云フモノ是レナリ此點ハ獨リ佛敎中ノ疑問ナルノミナラス諸哲學ノ疑問ナリ而シテ其疑問ハ開發ノ上ニ前後ノ差別ヲ立ツルヨリ起ル若シ其差別ヲ除キ去レハ其疑點モ亦同時ニ滅スヘシ是レ天台宗ノ理具說ノ起ル所以ナリ理具トハ平等ノ理性ニ本來差別ノ事相ヲ具有スルヲ云フ之ヲ躰性本具說或ハ因心本具說ト名ク其意一理開發シテ萬境ヲ現ス

ルモ萬境本來無ナルニアラス一理ニ具有シテ前後併存スルニヨルヲ云フ是レ畢竟天台ニテハ有ラユル差別ヲ盡ク除キ去リテ其極無差別中ニ差別ヲ見ルニ至リ一理萬境二樣並存ヲ唱フルニ外ナラス故ニ天台ノ中道ハ空中ニ有ヲ現シ平等中ニ差別ヲ存スル論ナリ之ヲ空假中三諦ノ法門ト名ク其假トハ空中ニ有ヲ現スルヲ云フ此理ヲ推シテ先キニ所謂相即不離融通無礙ノ論意ヲ了解スヘシ是レ實ニ中道ノ極致至理ナリ是ニ至リテ余カ先キニ述フル所ノ二樣並存一躰兩面ノ關係ノ全ク一大佛教中ニ於テ完成セルヲ見タリ故

ニ其說ハ完全ノ眞理ヲ有スルモノト斷定シテ可ナリ

第十四節　天台以上ニ至リテハ華嚴宗アリ眞言宗アルモ其說ハ天台ノ理論ヲ差別現象ノ上ニ應用シタル者ニ外ナラス蓋シ天台ハ平等論ノ最上ニ達シタルモノニシテ平等差別ノ中道ヲ說クモ其實平等ヲ本トシ差別ヲ末トスル傾向アルヲ以テ自然反動ノ勢差別ノ上ニ平等ヲ立ツル說起ラサルヲ得ス即チ其平等ノ理ヲ直チニ差別ノ一事一物ノ上ニ適用シテ事々物々ノ融通自在ナル「ヲ說キタルモノハ華嚴宗ナリ之ヲ事々無礙論ト名ク又更ニ事々物々ノ方ヲ本トシテ平等

ノ理ヲ說クニ至リタルモノハ眞言宗ナリ其宗ニ六大所成說アルモノ是レナリ然レ𪜈此等ノ諸說ハ天台ノ論理ノ方向ヲ轉シタルモノニ過キサレハ余ハ天台ヲ以テ理論ノ極點トス以上ハ理論宗ノ大要ナリ其論理ノ順序ハ差別ヨリ平等ニ向テ進ミ平等ヨリ差別ニ向テ出テ平等極リテ差別ヲ生シ差別極リテ平等ヲ生シ二者並存不離ノ關係ヲ證明セルモノナリ已ニ此ノ如ク論理進達シテ中道ノ眞理ナルヲ知レハ先キニ所謂萬法即眞如、眞如即萬法或ハ差別即平等、平等即差別ノ原則ノ眞理ナルヲ知ルヘシ若シ其眞理ナルヲ知レ

ハ我目前ノ事々物々其躰皆眞如ニシテ此世即チ眞如世界ナルヿヲ了スヘシ果シテ然ラハ我人ハ勿論、禽獸草木山川日月ニ至ル迄、皆眞如ノ理性即チ佛性ヲ具シ此變化生滅ノ世界ハ正ク不生不滅ノ極樂世界ナラサルヘカラス是レ中道宗ニ於テ我身即佛、此土即極樂ト唱フル所以ナリ之ヲ煩惱即菩提、生死即涅槃ト云フ天台ニテ國土山川悉皆成佛ヲ說クモ全ク此理ニ外ナラサルナリ

第十五節　果シテ然ラハ我輩何ソ此世界ノ外ニ極樂ヲ願ヒ我身ノ外ニ佛ヲ望マンヤ我人ハ生レナカラ此

身ノ儘ニテ即チ佛ナリト云フモノアルヘシ然ルニ天台等ノ中道宗ハ理論ノ外ニ實際ヲ說キ來リテ我身即佛トハ理論上ノ「ノミ實際上ニテハ我々ハ行ヲ修メ善ヲ積ミテ始メテ佛トナルヘシト云フ故ニ實際上ニアリテハ天台華嚴ノ中道宗モ倶舍法相ノ非中道宗モ更ニ異ナル「ナシ是レ理論宗ニ反對シテ實際宗ノ起リタル所以ナリ實際宗中淨土諸宗モ日蓮宗モ皆天台ノ理論實際ノ契合セサルヲ見テ起レリ蓋シ天台宗ハ差別平等ノ中道ヲ說キナカラ平等ノ上ニ理論ヲ立テタルヲ以テ淨土諸宗ハ之ニ反シテ差別ノ上ニ理論ヲ

立ツルニ至リ又天台宗ハ平等ノ上ニ理論ヲ立テナカラ差別ノ上ニ實際ヲ說キタルヲ以テ日蓮宗ハ之ニ反シテ平等ノ上ニ實際ヲ說クニ至レリ次ニ禪宗ハ天台ヨリ出テタルモノニアラサルモ其理論ハ矢張中道ノ眞理ニ本キ三界唯一心、心外無別法等ノ唯心ノ原理ニ照シ我心ノ本躰即チ眞如ノ理性ナレハ我人其本性ヲ觀見シテ成佛スヘキ所以ヲ說ケリ之ヲ見性成佛ノ法ト云フ此說ト淨土諸宗ノ說トノ異同ハ禪宗ハ主觀界裏ニ成佛ノ道ヲ立テ淨土諸宗ハ客觀界上ニ成佛ノ法ヲ立ツルノ點ニアリ日蓮宗モ主觀上ノ說ニアラスシ

テ客觀上ノ說ナレモ其淨土門ニ異ナルハ客觀上ニ平等論ヲ立テ即身成佛、此土極樂ノ說ヲ取ルニアリ然ルニ淨土門ハ客觀上ニ差別論ヲ立テ、我身ノ外ニ佛アリ此土ノ外ニ極樂アルヿヲ說ク是レ實際宗ノ中ニアリテ諸宗各其主義ヲ異ニスル所以ナリ而シテ淨土一門ノ哲理ハ眞宗ノ原理ナレハ次段ニ於テ論明スベシ

第四段　眞宗原理論第一

第十六節　眞宗原理ノ分類

第十七節　天台ノ平等論

第十八節　我人ノ知見

第十九節　天台淨土理論ノ相反

第二十節　天台淨土實際ノ相反

第二十一節　阿彌陀佛ノ性質

第二十二節　阿彌陀佛ノ證明

第二十三節　他力成佛ノ理

第十六節　佛敎ノ大陸ニ入リテ其山河ノ大勢ヲ望見スルニ俱舍法相ノ山脈ハ廣ク有空二門ノ境遇ニ跨リ天台華嚴ノ高嶺ハ遙ニ眞如實相ノ中天ニ聳ヘ其妙其美一望ノ下實ニ人ヲシテ仰嘆ニ堪ヘサラシム然レモ

世間ヨク其山巓ニ登リ其眞景ニ接シタルモノ果シテ幾人カアル老弱婦女子ノ輩ハ言フニ及ハス强壯健全ノモノト雖モ山至テ高フシテ道極メテ險ナレハ容易ニ攀ヂ登ルヘカラス然ルニ淨土一門ハ恰モ長江大河ノ如ク遠ク源ヲ天台中道ノ高嶺ニ發シ有空二門ノ幽谷ヲ過キ流レテ曠原平野ニ沃ギ村落到ル處其恩澤ニ潤ハサルハナシ殊ニ眞宗ニ至リテハ如何ナル愚夫愚婦モ其慈水ニ浴セサルハナシ其世間ヲ益スルヤ實ニ大ナリト謂フヘシ今謹テ其敎ノ原理トスルモノヲ考フルニ法相天台等ノ聖道諸宗ノ原理ト全ク相反スル

モノヽ如シト雖モ其實平等差別中道ノ眞理ニ外ナラス先ツ聖道淨土ノ異點ヲ擧クレハ聖道門ハ我身即佛、此土即極樂ヲ唱フルヲ以テ此土ニアリテ成佛スルヿヲ說キ淨土門ハ西方ノ極樂、西方ノ阿彌陀佛ヲ立ツルヲ以テ未來彼土ニ到リテ成佛スルヿヲ說ク又聖道門ハ自力ノ修行ナレハ難行道ナリ淨土門ハ他力ニ依憑スルモノナレハ易行道ナリ更ニ淨土諸宗ノ原理ノ聖道諸宗ニ異ナル要點ヲ擧クレハ左ノ如シ其中第一條ハ純正哲學上ヨリ判定シ第二條ハ心理學上ヨリ觀察シ第三條ハ宗敎學上ヨリ論評スルモノナリ

(第一) 平等論ヲ取ラスシテ差別論ヲ取ル ㄱ(純正哲學上)

(第二) 智力ニヨラスシテ感情ニヨル ㄱ(心理學上)

(第三) 道理ヲ本トセスシテ啓示ヲ本トスル ㄱ(宗教學上)

此三條中第一條ハ要點中ノ要點ニシテ他ノ二條ハ之レニ附屬セルモノニ過キス即チ第一條ノ純正哲學上ヨリ論定セル原理ハ第二條第三條ヲ貫通シテ淨土一門ノ教義ヲ組織スルモノナリ其他淨土門ハ理論ヲ捨テヽ實際ヲ取リ主觀論ヲ說カスシテ客觀論ヲ立ツル

等ノ諸點アレトモ皆第一條ノ下ニ概括スルヲ得ルナリ即チ余カ第十一節ニ理論宗實際宗ヲ分チテ淨土宗及眞宗ハ實際宗ナリト云ヒタルハ其宗ノ實際ヲ目的トスルニヨル實際トハ彼我差別ノ境遇ニ於テ其事情ニ適應スル教義ヲ立ツルヲ云フ之ニ反シテ天台ノ如キハ國土山川悉皆成佛ヲ唱フルハ平等一方ノ理論ニヨリテ立宗シタルモノト云ハサルヘカラス而シテ淨土門ノ如キ實際宗中ニ尙ホ理論ト實際トノ別アリテ天台等ト表裏相反スル點アル ㄱハ第二十節ニ至リテ知ルヘシ又純正哲學上聖道淨土ノ別ハ主觀客觀ヲ以

テ配スルヿヲ得ヘシ聖道門ハ三界唯心悉有佛性等ノ原理ニヨリテ主觀上ヨリ平等絶對ノ理躰ニ到達スル道ナリ淨土門ハ西方淨土、十刧彌陀ヲ立テヽ客觀的差別相對ノ上ニ成佛ノ法ヲ說キタル道ナリ故ニ實際理論ヲ以テ分ツモ主觀客觀ヲ以テ分ツモ共ニ平等差別ノ原理ニ外ナラサレハ余ハ此ニ平等差別ノ原理ヲ揭ケテ他ヲ略スルナリ此ノ如ク淨土門ノ原理ハ聖道門ト水火相容レサルノ勢ナルモ其間ニ亦一理脈ノ貫通スルアリテ一佛ノ金口ニ出テタル說ナルヿヲ證スヘシ其一理脈トハ他ニアラス有空不離融通無礙ノ中道

ニシテ二樣並存、一躰兩面ノ眞理ヲ云フナリ然リ而シテ淨土門ハ天台ト密着ナル關係ヲ有シ其原理ハ天台ノ裏面ヨリ分レタルモノナレハ一々之レト對照シテ說カサルヲ得ス余ハ曾テ天台ヲ評シテ是レ淨土日蓮ノ二道ノ相分ルヽ追分ニシテ其表面ヨリ分レタル道ハ日蓮宗ニ達シ裏面ヨリ分レタル道ハ淨土門ニ達スト云ヘリ

第十七節　先ツ第一條ノ意ヲ說明スルニハ天台ハ平等論ナルヿヲ略言セサル可ラス先キニ已ニ論セシガ如ク小乘ハ差別論ニシテ萬有ノ成立ヲ說キ法相モ起

信モ猶ホ差別ノ一部分ヲ存シテ未ダ全ク平等ノ理ニ躰達セズ然ルニ天台ニ至リテハ平等論ノ最上ニ達シテ人獸草木ハ勿論、國土山川ニ至ル迄悉皆成佛スヘシト說クニ至ル是レ平等論ノ極端ト云ハサル可ラス然リ而シテ其說敢テ差別論ヲ排スルニアラス已ニ眞如即萬法ト說キ來リテ差別ト平等ノ同躰不離ナル所以ヲ示セリ果シテ然ラハ天台ノ本意ハ平等差別ノ中道ニアリナカラ其理論ハ稍、平等ニ偏シタル嫌ナキ能ハス是レ淨土門ノ之ニ對シテ差別論ヲ取ルニ至リタル所以ナリ即チ天台ハ我ト佛トノ一躰ナルヲ說キ此土

ト極樂トノ同處ナルヲ說キテ其裏面ニ異躰差別ノ理ノ存スルヲ示サヽルヲ以テ淨土門ハ我ト佛トノ異體ヲ說キ此土ト極樂トノ別界ナル所以ヲ示ス是レ余ガ淨土門ハ天台ノ裏面ヨリ分レタリト云フ所以ナリ而シテ此二者ノ關係ハ要スルニ理論ヲ主トスルト實際ヲ主トスルトニアリ天台ハ理論ヲ主トスルヲ以テ萬法即眞如、生死即涅槃ノ原理ニヨリテ我身即佛、山川成佛ヲ說クモ若シ之ヲ實際ニ考フルニ我身決シテ佛ニアラス山川決シテ成佛スル能ハサルハ明カナリ是ヲ以テ淨土門ハ此レヨリ西方十萬億土ヲ隔テヽ極樂

淨土ノアルヿヲ說キ其土ニ阿彌陀ト名クル佛躰ノ存在スルヿヲ說ク然ルニ此點ハ人ノ大ニ怪ム所ニシテ何故ニ一佛敎中ノ佛ト極樂トノ說ニ此ノ如ク水火相容レサルノ相違アルヤ此疑問ニ答フルニハ人ト人トノ關係ニツイテ一例ヲ示スヘシ例ヘハ此ニ甲乙二人アリ其二人ハ容貌モ年齡モ共ニ異ナレハ各差別アリト云フヿヲ得ルト同時ニ其二人ハ共ニ人類ニシテ人ノ人タル一樣ノ性質ヲ有スルヲ以テ同一平等ナリト云フヿヲ得ヘシ蓋シ人ト人トノ關係ニモ平等ト差別トノ二樣ノ理ヲ具スルニヨリテ平等ノ一面ヨリ見レ

ハ甲乙二人其別ナク差別ノ一面ヨリ見レハ其別アルナリ若シ又我ト堯舜トヲ較スルニ我モ人ナリ堯舜モ人ナレハ我卽チ堯舜ナリト謂フヿヲ得ルハ平等上ノ論ナリ若シ差別上ヨリ之ヲ見レハ我ハ今日ノ人ナリ堯舜ハ我ヲ距ルヿ四千年前ノ人ナリト云ハサルヘカラス今淨土ニ遠近ノ別アリ佛ニ彼我ノ別アルモ同一理ニシテ差別ノ表面ヨリ見ルト平等ノ裏面ヨリ論スルトノ異同アルニヨルナリ

第十八節　今更ニ此關係ヲ明カニセント欲セハ佛敎ニテハ極樂モ地獄モ我人ノ知見ニ應シテ異同アリト

唱フル所以ヲ知ラサルヘカラス此世界ハ本來眞如開發ノ世界ナレハ此儘不生不滅安樂幸福ノ極樂界ナラサルヘカラス然ルニ我人之ヲ見テ極樂界ト信スル能ハサルハ我感覺ト智識トハ其程度尙ホ低フシテ之ヲ極樂ト見ルノ力ヲ有セサルニヨル蓋シ此世界ハ我感覺上ノ現象ナレハ不完不明ナル感覺ヲ以テ之ヲ接見スレハ不完ナル世界ヲ現シ完全明瞭ナル感覺ヲ以テ之ヲ觀察スレハ完全ナル世界ヲ示スヘキハ當然ノ理ナリ又之ヲ事實ノ上ニ考フルニ同一人類中ニテモ不學無識ノ愚民ガ鳥獸草木ヲ見テ感スルト博物學者

ガ之ヲ見テ感スルトハ大ニ其趣ヲ異ニス蓋シ生物學者ハ顯微鏡內ニ極樂ヲ見、天文學者ハ望遠鏡內ニ淨土ヲ見ルヘシ是ニ由テ之ヲ推スニ今日ノ我人ヨリ一層發達シタル智眼ヲ以テ此天地宇宙ヲ觀見スルヰハ必ス我カ之ヲ感知スルヨリ一層美妙ノ世界ナルヿヲ感知スルニ至ルヘシ果シテ然ラバ此世界ヲ極樂ト見ルモ地獄ト見ルモ共ニ我感覺智識ノ上ニアルハ明カナリ是レ畢竟此世界ハ本來眞如界ナルニヨル是ヲ以テ天台等ノ中道ノ諸宗ハ此土即チ極樂世界ナリト云フ然レモ是レ我人ノ知見漸ク進テ完全明瞭ノ地位ニ達

シタル時ニ限ル若シ今日ノ知見ニヨリテ之ヲ觀レハ此世界ノ極樂界ニアラサル┐又明カナレハ我今日ノ境遇ヨリ考フルヰハ極樂ハ此土ノ外ニアリト云ハサルヘカラス是レ淨土門ニアリテ西方ノ極樂ヲ說ク所以ナリ之ヲ要スルニ聖道門ニテハ完全ナル知見ノ上ニ極樂ヲ說キ淨土門ニテハ不完ナル知見ノ上ニ淨土ヲ立ツルニヨリテ其地位ニ異同ヲ生スルナリ而シテ西方十萬億土ニ極樂アリト云フカ如キハ唯此土ヲ距ル┐遠シトノ意ヲ示スノミ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ我感覺上ノ境遇ヲ距ル┐遠シトノ意ノミ

第十九節　若シ更ニ詳カニ此關係ヲ知ラント欲セハ理論ト實際トヲ辨別シテ說カサルヘカラス天台ハ理論宗ナレ𪜈理論ノ外ニ實際ヲ說キテ其二者相合セサル所アルヲ見ル其相合セサルハ平等ノ上ニ理論ヲ立テナカラ差別ノ上ニ實際ヲ說キタルニヨル淨土門ハ之ニ反シテ差別ノ上ニ理論ヲ立テナカラ實際ニ於テハ却テ平等ヲ取ルニ至ル先ツ天台ニテ理論實際ヲ分チタル所以ヲ考フルニ理論上我身即佛ヲ唱フレ𪜈實際上我人佛ニアラサル┐明カナレハ實際ト理論ノ異ナル所以ヲ示スニ氷ト水ノ比喩ヲ以テス蓋シ佛敎ニ

テ眞如萬法ノ關係ヲ示スニ水波ノ比喩ヲ取リ眞如ハ水ノ如ク萬法ハ波ノ如ク萬法即眞如ハ波即チ水ナリト云フカ如シト說クヿアリ之レト同ク理論實際ノ關係ヲモ亦水ニヨリテ說明シ理論上我即チ佛ナリト云フハ氷即チ水ナリト云フニ同シ何者我本躰即チ佛ナルハ氷ノ本躰即水ナルト同一ナレハナリ然レ𪜈是レ唯理論ノミ若シ實際上之ヲ視ルニ氷ハ氷ニシテ水ノ用ヲナサス水ハ水ニシテ氷ノ形ヲ有セス二者全ク別物ナルカ如ク我人ト佛トハ亦同躰ニアラス我人ハ不明不完ノ迷見ヲ有シ所謂煩惱ノ氷ヲ有スルモノナレ

ハ其氷ノ解ケタル佛トハ決シテ同躰ナリト云フ可ラス然ラハ我人ハ如何シテ佛ニ成ルヘキヤト云フニ其本性已ニ佛ナレハ我人ハ善因ヲ修メ德行ヲ積ミ以テ漸々ニ其氷ヲ溶解シ他日ヲ待チテ佛果ヲ得ルニ至ルヘシ是ニ於テ天台ニテハ修行ノ階級ヲ設ケ漸次ニ一級ヅヽ進ミテ他日佛果ノ位ニ達スルヿヲ說ク然ルニ我人ノ有スル氷ハ至テ堅クシテ容易ニ溶解スヘカラサレハ佛果ニ達スルニ非常ノ難苦ト永遠ノ年月トヲ要スルナリ故ニ淨土門ハ之ヲ名ケテ難行道ト云フ是レ畢竟天台ニテハ理論ノ上ニ我モ佛モ同一ナリト云

ヘル平等論ヲ唱ヘナカラ實際上ニハ我ト佛トノ異ナル差別論ヲ取ルニヨル然ルニ淨土門ハ其所謂實際上ニ理論ヲ立テテ畢竟聖道門ニテ我人ガ成佛スルニ永遠ノ年月ヲ要スルハ我人ハ凡愚ニシテ佛ト其性質ヲ異ニスルニヨルトナス故ニ我身ノ外ニ佛アリ此土ノ外ニ極樂アリト說キ來ルナリ

第二十節　此ノ如ク天台ノ理論ト淨土ノ理論トハ平等差別ノ相違アリテ表裏相反スト雖モ若シ淨土ノ實際ニ至リテハ却テ平等論ヲ取リテ差別ノ階級ヲ設ケス誰レニテモ信心ヲ得タルモノハ未來ニ於テ即時ニ

西方極樂ニ至リテ成佛スヘシト云フ即チ天台ニテハ理論上ニテ煩惱即菩提、生死即涅槃ト說キタルニ淨土門ハ其理ヲ實際上ニ適用シ來リテ我人ノ如キ凡愚ノ身ガ一タビ他力ニ歸順スレハ自ラ煩惱ノ氷ヲ溶解セサルモ其迷ノ儘ニテ佛ニナルヘシ是レ煩惱即菩提ナルニヨルトナス然リ而シテ我人ト佛トノ異同ハ煩惱ノ氷ノ有無ニヨル以上ハ其氷ヲ解カサスシテ佛ニナルヘキ道理萬アルヘカラスト云ヒテ疑フモノアルヘシト雖モ其氷ハ我力ニテ解カントスルキハ永遠ノ年月ヲ要スルヲ以テ我ハ寧ロ之ヲ抱キ守ルニ如カス而

シテ我ヨリ千百倍勝レタル佛ノ力ニヨルヰハ即時ニ溶解シ去ルヿヲ得ヘシ是レ自力他力ノ名稱ノ分ルヽ所以ナリ聖道門ハ自身ノ力ニシテ其氷ヲ溶解セント シ淨土門ハ他ノ力ニヨリテ溶解セントス其一ハ自力ノ修行其二ハ他力ノ修行ナリ之ヲ要スルニ天台ト淨土トノ關係ハ左ノ表ニツイテ一見スヘシ

天台 理論——平等論
　　實際——差別論

淨土 理論——差別論
　　實際——平等論

若シ淨土實際ノ他力ノ理ヲ明カニセント欲セハ他力ノ本躰ハ如何ナル佛ニシテ其佛ト我人ノ間ニ如何ナル關係アルヤヲ論セサルヘカラス

第二十一節　先ツ淨土門ニテ立ツル所ノ佛ハ之ヲ阿彌陀佛ト名ケ西方十萬億ノ淨土ニ所住スル佛躰ヲ云フ阿彌陀ハ無量壽若クハ無量光ト譯シ時間ヲ窮メテ其壽命ノ盡クルナキヲ無量壽ト云ヒ空間ヲ極メテ其智慧ノ照サヽルナキヲ無量光ト云フ實ニ諸佛中ノ最上ニ位スル佛ナリトナス凡ソ佛教ニテ佛ト名クルモノニ平等差別ノ二樣アリテ平等上ノ佛ハ眞如ト同躰

ニシテ我人モ我心モ亦皆之ト同躰ナリ之ヲ心佛及衆生是三無差別ト稱シテ其佛ハ天台華嚴等ノ平等的理論ノ上ニ說ク所ノ佛ヲ云フ若シ差別ノ上ニ考ヘ來ラハ心佛衆生是三有別ニシテ我ト佛ト眞如ト各別物ナラサルヘカラス今淨土門ノ阿彌陀佛ハ此差別上ノ佛ヲ取リ眞如平等ノ理性ヲ義トスルニアラス故ニ其佛ハ啻ニ我人ト異ナルノミナラス他ノ諸佛トモ異ナリテ諸佛中最上ノ德ト力トヲ具シタル佛ナリ故ニ其佛ハ差別ノ最上ニ位シタルモノト謂フベシ已ニ差別ノ最上ニ位セル以上ハ眞如ト其性質ヲ同ウシ其作用ヲ

一ニスルモ眞如其物ト同一ナルニアラス即チ裏面ニハ眞如ト其性德ヲ同ウスルモ表面ニハ差別ノ成立ヲ有シテ眞如トオノヅカラ異ナル所アリ故ニ其成佛ノ年歷ヲ說クニモ十刼トナス卽チ經文ニ成佛以來凡歷十刼ト云フ是レナリ是レ差別ノ佛身ヲ義トスルニアラズシテ何ソヤ若シ平等ノ本性ニツイテ之ヲ云ヘハ無始久遠ト說カサルヘカラス蓋シ佛敎ニテ佛身ヲ論スルニ法報應ノ三身ヲ分ツ其中法身ハ眞如ノ理ナレハ平等ノ躰ナレモ報身ハ其德ニ報酬シタル結果ノ佛身ナレハ差別ノ佛身ナリ應身ハ群類ヲ化益センガ爲

メニ此世ニ現シタル佛身ナレハ亦固ヨリ差別ノ佛身ナリ阿彌陀ノ躰ニモ此三種ノ佛身ヲ具有スルヲ以テ平等差別ノ二樣ノ理ヲ一身ノ上ニ具備スル「明カナリ然ルニ淨土門ハ差別上ニ理論ヲ立テタルモノナレハ其佛ハ固ヨリ差別上ノ佛身ヲ云フナリ決シテ其佛ト眞如ノ理性トヲ混同スル「勿レ果シテ差別上ニ此ノ如キ佛躰ノ存スル所以ハ更ニ證明ヲ要スルナリ

第二十二節　抑モ佛教ハ因果教ト稱シテ徹頭徹尾因果ノ理法ヲ以テ組織シ善因善果惡因惡果ヲ以テ全教一貫ノ通則トナシ佛陀モ菩薩モ皆善因ヲ修メテ善果

ヲ得タルモノニ外ナラストナス而シテ善因異ナレハ其果亦異ナラサルヲ得サレハ佛ニモ種々ノ佛アリ菩薩ニモ種々ノ菩薩アルニ至ル是レ自然ニ道理ノ然ラシムル所ナリ果シテ然ラバ空間ノ限リナキ時間ノ窮リナキ世界ノ無數ナル生類ノ無量ナル其間ニハ如何ナル最上ノ善因ヲ修メテ最上ノ善果ヲ得タルモノアルヤモ知ルヘカラス例ヘハ一ノ數アリ二ノ數アリ之ニ百倍千倍萬倍スル數アリト知ルキハ之ヲ推シテ無數無量倍スル大數アル「ヲ論シ得ルト同一理ナリ若シ之ヲ我人ノ上ニ考フルキハ我ヨリ下等ナル禽獸ア

リ魚虫アリ草木アリ土石アリ草木ハ土石ヨリ一層高等ニ位シ魚虫ハ草木ヨリ一層高等ニ位シ禽獸ハ魚虫ヨリ一層高等ニ位シ人類ハ禽獸ヨリ一層高等ニ位スル理ヲ推スキハ更ニ人類ヨリハ一層二層乃至百千層高等ニ位スルモノアルヲ知ルヘシ若シ善因善果ノ道理眞ナレハ必ス此推論モ眞ナラサルヘカラス是ヲ以テ人類ヨリ數層高等ニ位スル佛菩薩アルヿヲ推知スルヲ得ヘシ而シテ其佛菩薩ニモ亦種々ノ等位アルヘキヲ以テ其等位中最上ニ位スル佛躰ナカルヘカラス之ヲ阿彌陀佛ト名ク即チ淨土門ニ立ツル所ノ佛ナリ

其佛ハ無量ノ善因ヲ修メ無量ノ善果ヲ得タル躰ナレハ又無量ノ德ト力トヲ有セサルヘカラス故ニ其躰ハ差別ノ最上ニ位シテ平等ノ眞如ト其性質ヲ同ウスルモノナリ其性質トハ無礙自在ノ德ト力トヲ云フ即チ無量ノ智慧ト無量ノ慈悲ナリ我人猶ホ多少ノ智慧ト慈悲トヲ有ス況ンヤ我人ニ無量倍スル阿彌陀佛ニ於テオヤ此無量圓滿ノ悲智ノ光ニヨリテ組織シタルモノ實ニ淨土一門ノ教義ナリ嗚呼其レ無量深大ノ教義ナラスヤ

第二十三節　此ノ如ク阿彌陀佛ノ無礙自由ノ德ト力

トヲ有シ無量無邊ノ智ト悲トヲ有スル所以ヲ知ルキハ我人其躰ニ歸順依憑シテ我ガ生來抱有セル煩惱ノ堅氷ヲ其力ニヨリテ一時ニ溶解シ容易ク成佛スル所以ノ理ヲ知ルヘシ聖道門ハ自力ノ修行ナレハ自ラ其氷ヲ溶解セサルヘカラス故ニ永久ノ年月ヲ要スト雖モ淨土門ハ阿彌陀佛ノ無量無礙ノ光ニヨリテ溶解スルモノナレハ固ヨリ年月モ苦行モ要セサルナリ然レトモ我人一心ニ其佛ヲ信念セサレハ縱令其躰ニ平等自在ノ德ヲ有スト雖モ我人其悲光ノ餘澤ヲ被ムルヿ能ハサルハ蓋シ其佛ノ慈悲ハ智慧ニヨリテ發シ道理ニ

ヨリテ生シタルモノナレハ道理ニ反スル救助ヲナスヘキ理ナケレハナリ今我人其佛ヲ信念セスシテ其救助ヲ受ケントスルハ是レ道理ニ反スルモノナリ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ因果ノ規則ニ反スルモノナリ是レ豈佛教ノ許ス所ナラシヤ且ツ余ハ其德ノ無礎自在ナルヲ大陽ノ光線ノ無礙自在ナルニ比シテ說明セントス日光ハ自由自在ニシテ如何ナル間隙モ必ス之ニ入リ其力ノ及フ所、高下大小平等ニ照ササルハナシト雖モ暗室アリテ其窻戸ヲ密鎖スルキハ其中ニ照入スルヿ能ハス今阿彌陀佛ノ悲智ノ光ハ實ニ無礙自在ニシ

テ賢愚利鈍ヲ平等ニ照サヽルナシト雖モ我人ハ我心内ニ煩惱ノ堅氷ヲ蓄ヘ四面ヲ鎖シテ恰モ暗室ノ如シ故ヲ以テ無礙ノ光モ其内ニ入ル能ハス若シ我人阿彌陀佛ニ對シテ我心門ヲ開キテ其無量無礙ノ悲智ノ二光ヲ其中ニ入ルヽトキハ恰モ大陽ニ向ヒテ暗室ノ窓戸ヲ開クガ如ク我年來蓄積セル堅氷一時ニ溶解シテ未來淨土往生ノ即時ニ決定スルニ至ルヲ得ヘシ之ヲ正定聚ノ位ニ住スト云フ而シテ其心門ヲ開クトハ一心一向ニ信念スルヲ云フナリ是理ニヨリテ眞宗一家ノ傳フル所ノ信心正因、他力往生ノ理ヲ了知スヘシ然ル

ニ世間ノ論者ハ自力成佛ハ因果ノ規則ニヨルヲ以テ道理ニ合スト雖モ他力成佛ハ因果ノ規則ニ反スルヲ以テ信シ難シト云フ是レ因果ノ理法ヲ知ラサルモノヽミ凡ソ因アレハ必ス果アルハ自然ノ定理ナリト雖モ其修ムル所ノ因ハ必スシモ一道ニ限ルニアラス難行ノ因ヲ修メテ其果ヲ得ルモ易行ノ因ヲ修メテ其果ヲ得ルモ共ニ因果ノ理ニ從フモノナリ例ヘハ飲用水ヲ求ムルニ自ラ地ヲ穿チテ井水ヲ得ルハ難行ナリ源泉ノ自然ニ流ルヽモノヲ引キ來テ之ヲ用フルハ易行ナリ人誰レカ之ヲ評シテ其一ハ原因ニヨリテ其果ヲ

得其二ハ原因ナクシテ其果ヲ得タルモノト云フヤ是レ共ニ因果ノ規則ニヨルニアラスヤ今阿彌陀ノ德ハ此自然ニ流ルヽ水ノ如ク我人ハ毫モ自ラ其力ヲ役スルヲ要セス唯此水ヲ我躰内ニ引キ來ルノミニテ成佛ノ目的ヲ達スルヿヲ得ヘシ之ヲ眞宗ニテハ彌陀ニ歸順スル即時ニ其佛所有ノ諸善萬德ガ我心中ニ融入顯現シ來リテ我人ヲシテ淨土往生決定ノ地位ニ至ラシムルト說キテ其道理ハ南無阿彌陀佛ノ六字中ニ包含シテ存スト云フ此六字中南無トハ歸命ト譯シ歸命トハ本願招喚ノ勅命ナリト釋シテ即チ我人ガ阿彌陀佛

ノ命令ニ歸順スルヿナリ而シテ阿彌陀佛ハ群類衆生ヲ化益救助センガ爲メ大願望ヲ起シテ已ニ難苦ヲ重テ其望ヲ成就シタル躰ナレハ我人ガ其躰ニ歸順スルト同時ニ其佛力ニヨリテ我人ヲ救助シ得ルモノトナス此力ヲ阿彌陀ノ願力ト名ク因テ我人ノ淨土往生ハ此願力ニヨルモ其力ヲ我躰ニ引キ來ルニハ其願力ヲ信受シ其命令ニ歸順スルヲ要スレハ之ヲ自力ノ修行ニ比スルニ唯難易ノ別アルノミニテ共ニ因果ノ規則ニ本ツクモノナリト知ルヘシ

第五段　眞宗原理論第二

第二十四節　感情的宗教

第二十五節　我人ノ感情

第二十六節　佛躰ノ感情

第二十七節　感情智力ノ兼備

第二十四節　前段ハ淨土門ノ純正哲學ニ屬スル部分ヲ論評シタルモノニシテ即チ淨土門ハ平等論ヲ取ラスシテ差別論ヲ取ル所以ヲ述ヘタルモノナリ而シテ其實表面ニ差別ヲ取リ裏面ニ平等ヲ取ル所以オノヅカラ知ルヘシ淨土門ノ阿彌陀佛ハ差別上ノ佛躰ヲ指

スモノナレ𪜈其德ニ至リテハ眞如平等ノ理ニ異ナラス又我人ト佛トノ差別ヲ說キナガラ成佛ノ一段ニ至リテハ階級年月ノ差別ニヨラス是レ余ガ先キニ淨土門ヲ評シテ理論上ニ差別ヲ取リ實際上ニ平等ヲ取リタリト云フ所以ナリ畢竟スルニ平等ト差別トハ表裏兩面ノ關係ヲ有シ同躰不離ノ性質ヲ有スルニヨル次ニ其原理ノ第二條ニ移リ心理學上ヨリ講究スル𪜈ハ淨土門ハ智力ニヨラスシテ感情ニヨル所以ヲ說明セサルヘカラス而シテ此心理上ノ說明ハ第一條ノ原理ト同一ノ關係ヲ有シテ表面ハ感情ニヨリ裏面ハ智力

ニヨリ智情兩面一躰ノ道理ニ基クモノナリ之ニ對シテ聖道門ハ表面ニ智力ヲ取リ裏面ハ感情ニヨルモノナリ故ニ此點モ亦天台ト淨土ト相反スル所以ヲ知ルヘシ而シテ余ガ淨土門ヲ名ケテ感情的宗敎ト云ヒ聖道門ヲ名ケテ智力的宗敎ト云フハ唯其表面一方ニ與フル區別ノミ先ツ淨土門ヲ感情的宗敎トナス所以ハ我人ノ身上ニ考フルト我人ガ信念スル佛躰ノ上ニ考フルトノ二樣アリ第一ニ我人ノ上ニ考フルキハ其宗門ニテハ人ノ賢愚ヲ問ハス如何ナル無智無學ノモノニテモ信シ得ヘキ敎義ヲ說キ人ノ學問道理ニヨラス

シテ唯信念依憑ヲ本トスルハ其智力的ニアラサル所以ナリ殊ニ眞宗ニテハ信心正因ト說クガ如キ其信心ハ阿彌陀佛ノ命令ニ歸順シ其願力ニ依憑スルヿト解スルガ如キ又之レニヨリテ我心ニ安樂慶喜ヲ生スト云フガ如キ皆感情的作用ナラサルハナシ第二ニ佛躰ノ上ニ考フルキハ阿彌陀佛ニハ智慧ト慈悲トノ兩德ヲ兼備スルニ淨土門ハ其中慈悲門ヲ開キテ立テタル宗旨ナレハ是レ又感情ニ屬セサルヘカラス

第二十五節　先ツ我人ノ上ニ其宗義ヲ考フルニ淨土門ノ信心ハ愚昧ノ妄信ナルガ如ク見ユレ𪜈其敎理ノ

由リテ起ル所ヲ尋ヌルニ中道諸宗ノ哲理ヲ實際ニ應用シ來リタル信心ナレハ決シテ妄信ト云フヘカラス唯我人ガ一々其哲理ヲ我智力ニ訴ヘテ討究セサルノミ抑モ信ニ二種アリ即チ道理窮リテ生スル信ト道理ニヨラスシテ起ス信是ナリ此道理ニヨラサル信ニ亦二種アリ即チ道理ニ合スルモノト道理ニ反スルモノ是レナリ眞宗一家ノ信ハ天台ノ理論ノ裏面ニヨリテ組織セル道理ニヨルモノナレハ縱令人ヲシテ其理ヲ究メシメサルモ其實道理ニ合スル信ナル「疑ヲ容レス又眞宗信者ノ其教ヲ信スルハ感情ノ作用ニヨルト

云フモ感情ニハ下等ノ感情ト高等ノ感情トノ二種アル「ヲ知ラサルヘカラス例ヘハ愚民ハ雷ヲ恐レテ雷神ヲ祭リ洪水ヲ恐レテ水神ヲ祭ルガ如キハ恐怖ノ妄情ヨリ發シ利己ノ私心ヨリ生スルヲ以テ下等ノ感情ニ屬スルモノト云フヘシ野蠻人種ノ宗教ハ皆此種ニ屬ス然ルニ博愛共樂ノ大慈悲心ヨリ起リタル宗教的情操ハ實ニ高等ノ感情ニシテ人ノ人タル眞正ノ德性ヲ啓發シ其中ニハ眞善美ノ三元素ヲ包有スルモノナリ此クノ如キ情操ニヨリテ組織セル宗教ハ實ニ高等ノ宗教ト云ハサルヘカラス今眞宗ニテ立ツル所ノ教

義ハ正ク此博愛共樂ノ慈悲心ニ本キタルモノニシテ眞善美ノ德性ヲ啓發セルモノナリ即チ其宗ニテハ阿彌陀佛ノ大慈悲ヲ我躰ニ融入シ來リテ我ヲシテ其悲光ノ中ニ歡喜踊躍セシムルヿヲ說クヲ以テ決シテ恐怖利己ノ私心ヨリ生スルモノニアラス已ニ其宗ニテ惡人正機ト說キテ惡人ヲ以テ第一ノ目的トシ五障三從ト云ヒテ女人ヲ貶斥スルカ如キハ實ニ彌陀ノ慈悲ノ平等無私ナルヿヲ示スモノナリ蓋シ彌陀ハ我人ヲ一子ノ如ク平等ニ愛憐スルヲ以テ惡人ヲ見レハ一層愛憐ノ情ヲ引起シ之ヲ救助セントスルノ念一層甚シ

殊ニ婦女子ノ如キ天然ノ性質トシテ男子ト同等ノ職務ニ就キ同等ノ權力ヲ爭フヿ能ハサルモノヲ見レハ其慈悲心ノ深キ之ヲ不問ニ付スルヿヲ得サルナリ凡ソ人ノ父母タルモノハ其子ヲ平等ニ愛憐スルヲ以テ其中遊惰放蕩ニシテ一身ノ活路ヲ立ツルヿ能ハサルモノアレハ之ヲ愛憐スルノ情却テ他ノ子ヲ思フヨリ甚キモノナリ又生來體質羸弱或ハ不具ニシテ他人ト同等ノ職務ニ就クヿ能ハス同等ノ權力ヲ爭フヿ能ハサルモノアレハ一層之ヲ愛スル情切ナルモノナリ又父母カ其子ノ惡ヲ擧ケテ之ヲ責メ他人ノ善ヲ擧ケテ

之ヲ譽ムルハ自身ノ子ヲ憎ムニアラスシテ愛スルヨリ起ルヿハ余カ辯ヲ待タス故ニ佛教ニテ殊更ニ女子ノ惡ヲ擧クルノ意ハ女子ヲ貶斥スルニアラスシテ之ヲ愛憐スルノ情一層深キニヨルモノト知ルヘシ此ノ如キ平等無私ノ大慈悲心ニ本ツキテ組織セル宗旨ナレハ決シテ利己ノ私心ニヨリテ成立セル宗教ト同日ニ論スヘカラス而シテ眞宗ニテハ利己ノ私心ヨリ生スル祈禱禁厭ノ如キハ一宗ノ法規トシテ之ヲ禁止セリ且ツ眞宗ニテ稱名念佛ヲ勸ムルモ唯徒ラニ口ニ唱フル念佛ヲ云フニアラス六字ノ意ヲヨク其心ニ了解

シ其味ヲ受領シテ一向ニ阿彌陀佛ニ歸依スル宗義ナレハ全ク感情一方ノ念佛ト云フヘカラス故ニ淨土門殊ニ眞宗ハ感情的宗教ナリト云フモ感情中高等ノ情操ニ基キタルモノナルヿヲ知ルヘシ而シテ高等ノ情操ハ眞善美ノ諸德ヲ具有シ完全ナル道理、明瞭ナル知識ニ基キタルモノナレハ固ヨリ智力ノ最上ヨリ生シタルモノナルヿ亦敢テ多言ヲ要センヤ故ニ余ハ淨土門ハ表面ニ感情ヲ示シ裏面ニ智力ヲ具シ情智兩全ノ宗教ナリト云フナリ畢竟此ノ如キ高等ノ宗教ノ我邦ニ起リ且ツ今日ニ行ハルヽハ我人民一般ノ知識ノ程

度意外ニ高キヲ證スルニ足ル

第二十六節　次ニ佛躰ノ上ニ考フルニ淨土一門ニ於テ立ツル所ノ佛ハ先キニ已ニ述ヘタルガ如ク平等ノ理性ヲ云フニアラスシテ差別ノ佛身ヲ義トスルモノナレハ其躰ノ上ニ心性作用ヲ具スルヿヲ說キ無量ノ智慧ト無量ノ慈悲トノ存スルヿヲ示スヲ以テ耶蘇敎ノ天神ト甚タ相近キモノヽ如ク見ユルモ亦大ニ其趣ヲ異ニスル所アリ耶蘇敎ニテハ此宇宙萬有ハ天神ノ意志ニヨリテ創造シタルモノニシテ我人ノ善惡賞罰モ天神ノ獨斷ニヨリテ審判スルモノナリト說クヲ以

テ道理上講究スルヰハ天神ノ何ノ目的ヲ以テ此世界ヲ作リシヤ何故ニ此ノ如キ不幸不完ノ世界ヲ作リシヤ何故ニ惡心ヲ我ニ賦與セシヤ何故ニ我人ヲシテ盡ク神ヲ信スルヿヲ得セシメサルヤ神ハ果シテ全智全能ヲ有スルモノナルヤ全智全能ノ神ナラバ世界創造ノ時ニ已ニ其最後ノ結果ヲ豫知前定スヘキ理ナラスヤ已ニ之ヲ前定スル以上ハ何故ニ人ニ自由意志ヲ與ヘテ徒ラニ其果シテ善ヲナスカ惡ヲナスカヲ試ルヿヲスルヤ神ハ我人ガ其賦與サレタル自由意志ニヨリテ如何ナルヿヲナスカヲ創造ノ時ニ前知スルノ智力

ヲ有セサリシヤ等ノ難問續々起リ來リテ道理上甚タ之レカ説明ヲナスニ苦ム是レ畢竟其教ノ古代蠻民ノ想像ニ本キテ起リタルモノニシテ道理上ノ宗教ニアラサルニヨル然ルニ佛教ハ徹頭徹尾道理ニ基キテ組織シタル宗教ナレバ此天地宇宙ハ眞如開發ノ世界ナリト定ム故ニ其間ニ現見スル森羅ノ諸象ハ勿論、我人ノ精神モ神モ佛モ其躰皆眞如ナレバ皆悉ク眞如自躰ニ固有セル規律ニ從ハサルヘカラス其規律トハ因果ノ理法是レナリ故ニ我人ヲ賞スルモノモ此理法ニシテ罰スルモノモ此理法ナリ我人ガ自ラ進テ佛ニ成ル

モ我人ニ先チテ佛ニナリタルモノアルモ佛ガ我人ヲ救助スルヿヲ得ルモ我人ガ其力ニ依憑シテ淨土ニ往生スルヿヲ得ルモ一トシテ因果ノ理法ニヨラサルナシ故ニ阿彌陀佛ハ我人ニ無量倍スル無量ノ智慧ト慈悲トヲ兼有スルニ至リタルモ我人ニ無量倍スル無量ノ善因ヲ修メテ得タル結果ナリト知ルヿハ毫モ怪ムニ足ラサルナリ是レ畢竟其教ノ道理教ニシテ想像教ニアラサルニヨル又佛教ニテ佛ニ種々ノ佛アリ極樂ニ種々ノ極樂アリト立ツルモ原因ニ種々アレハ結果ニモ種々アルヘシト云ヘル因果ノ理法ニ出テタルヿ

明カナリ又此世界ハ眞如開發ノ世界ニシテ事々物々其躰皆眞如ナレハ人類ハ勿論、國土山川ニ至ル迄若シ成佛ノ原因ヲ修ムルヿヲ得レハ成佛スヘキ道理ナルヲ以テ天台ニテハ國土山川悉皆成佛ヲ說クニ至ル又我人ガ誰ニテモ其迷執ヲ拂ヒ去レハ佛性ヲ開發シテ佛トナルト說クモ亦皆因果ノ道理ニ外ナラス例ヘハ氷ヲ溶解スレハ水トナルハ其體モト水ナルニヨル氷若シ砂石ヨリ成リタルモノナラハ何程之ヲ火ニ溫ムルモ水ニ濕スモ決シテ水トナルヘカラス即チ我人ハ我迷執ヲ溶解シ去レハ佛トナルハ畢竟其躰モト眞如

ニシテ我人ニ本來佛性アルニヨルト云ハサルヘカラス是レ皆因果必然ノ理法ニ本クモノナリ然ルニ淨土門ハ實際差別ノ上ニ立テタル宗旨ナレハ我人自ラ煩惱ヲ斷滅シテ佛性ヲ開現スルヿ能ハサルモノト斷定シ阿彌陀佛ニ歸依スル他力成佛ノ說ヲ唱フルニ至レリ是レ因果必然ノ理ニ反スルガ如キモ前段第二十三節ニモ論スルガ如ク唯原因ノ種類異ナルノミニテ矢張因果ノ理ニ本ツクヤ疑ナシ是ニ由テ之ヲ觀ルニ淨土門ニテ阿彌陀佛ヲ立ツルハ表面ニハ耶蘇敎ノ天神ノ如ク想像的感情上ニ現スル躰ヲ取ルモノヽ如キモ

裏面ニハ因果必然ノ理法ニヨリテ論定セル道理的智力上ヨリ出テタル說ニヨルモノナルヤ明カナリ若シ又淨土門ノ由リテ開ケタル阿彌陀佛ノ慈悲門ヲ考フルトキハ其裏面ニ智慧門アリテ其光ノ返照ニ出テタルヿ明カナレハ實ニ智情一致悲智兼備ノ上ニ立テタル宗教ナルヲ知ルヘシ蓋シ佛ニハ自ラ進テ眞理ヲ證得スル作用ト顧テ世間ヲ利益スル作用トノ二種ヲ具有ス其一ハ智慧ニシテ其二ハ慈悲ナリ今阿彌陀佛ノ無量ノ慈悲ハ無量ノ智慧ヨリ生シタルモノナレハ表面ニ感情ノ相ヲ示シテ裏面ニ智力ノ性ヲ抱クモノト

云フモ不可ナルヿナシ

第二十七節　此ノ如ク淨土門ハ我人ノ上ニ考フルモ佛躰ノ上ニ考フルモ共ニ感情ニヨリテ組織シタル宗教ナルヿ明カナリト雖モ其實全ク下等ノ妄想的感情ニヨリタルモノニアラスシテ道理智識ニ本キタル高等ノ感情ニヨリテ組織セル宗教ナルヿ亦疑ヲ容レス故ニ余ハ之ヲ表面ニ感情ヲ示シ裏面ニ智力ヲ含ム宗教ナリト云フ之ニ反シテ聖道門ハ智力ニヨリテ組織シタル宗教ニシテ自ラ道理ヲ究メテ眞理ヲ證得スル主義ヲ取リ徹頭徹尾道理ヲ以テ貫キタルモノヽ如シ

ト雖モ又全ク感情ノ元素ヲ含有セサルニアラス即チ聖道諸宗ニアリテモ釋迦所說ノ敎義ハ眞ナリト信シ之ニヨリテ迷苦ヲ脫シテ悟樂ヲ得ンヿヲ願フカ如キ皆感情ニ屬スル作用ナリ又大乘宗ニアリテハ其佛モ我人ノ修行モ皆自利利他兼行ヲ目的トシ悲智兩作用ヲ開發スルニアレハ道理ノ裏面ニ感情ヲ包含スルモノナルヿ明カナリ今左ニ聖道淨土二門ノ別ヲ示スヘシ

聖道門 表面——智力
　　 裏面——感情

淨土門 表面——感情
　　 裏面——智力

故ニ心理學上比較スルニ聖道淨土ハ純正哲學上ノ比較ト同ク正反對ノ性質ヲ有スルモノナリ然リ而シテ二樣並存一躰兩面ノ原理ヨリ視ルトキハ一佛敎中ニ此ノ如キ相反ノ點アルハ却テ其完全ノ宗敎ナルヿヲ證スルモノナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ智情兼全悲智圓滿ノ宗敎ナルヿヲ示スモノナリ若シ其二者中一方ノミヲ取リテ他ヲ排スルモノナルトキハ是レ中道ノ正理ヲ失シタル偏見ト云ハサルヘカラサルモ兩面一躰ノ

關係ニヨリテ開立シタルモノナレハ固ヨリ中道ノ眞理ト云フヨリ外ナシ然リ而シテ淨土門ノ眞味ハ寧ロ此感情ノ一方ニアリテ存スルヿヲ忘ルヘカラス蓋シ絶對不可知的ノ妙ハ智力ニヨリテ推測スヘキモノニアラスシテ情操上ニ感受スヘキモノナリ殊ニ妙中ノ妙ニ至リテハ言亡慮絶ニシテ唯之ヲ無言無思ノ間ニアリテ直覺スルヨリ外ナシ今眞宗ノ信心ハ全ク此點ニ本キ佛力ノ不思議我躰ニ融入シ來リテ實ニ我ヲシテ知ラス識ラス天ニ舞ヒ地ニ躍ルノ大歡喜ヲ得セシム眞宗ノ妙其レ此ニアルカ是レ余カ次段ニ論明セン

ト欲スル所ナリ

第六段　眞宗原理論第三

第二十八節　道理ト啓示トノ別

第二十九節　人智ノ有限

第三十節　絶對ト啓示トノ關係

第三十一節　佛教ト啓示トノ關係

第三十二節　眞宗ト啓示トノ關係

第三十三節　道理ト啓示トノ並存

第二十八節　是レヨリ眞宗原理第三條ニ移リ淨土門

ハ啓示ニヨリテ絶對門ヲ開キタル宗旨ナル「ヲ論明セントス啓示トハ或ハ天啓ト云ヒ或ハ顯示ト云フモ其意同一ニシテ先キニ已ニ解スルカ如ク神佛聖賢ノ啓告訓示ヲ義トスルナリ若シ眞宗ヲ哲學上ヨリ講究セントスルヰハ第一條ノ原理最モ重要ナルモノナレヒ若シ宗教上ヨリ信念セント欲スルヰハ此第三條最モ重要ナリトス之ヲ要スルニ第一條ハ全ク道理智識ノ範圍内ニ屬シ第二條ハ其内外ニ跨リ此一條ハ全ク道理以外智識以上ニ渉リタルモノニシテ宗教ニハ此一種ノ原理ヲ加ヘサレハ決シテ其組織ヲ完成スル「

能ハス凡ソ如何ナル宗教ニテモ其基ツク所ノ原理ハ道理以外、智識以上、不可思議、不可知的、平等絶對ノ本躰ナレハ道理智識以内ヲ目的トスル學問トハ決シテ同一ニ論スヘカラス我人モ强壯無事ノ日ニアリテハ更ニ宗教思想ノ起ルコトナキモ一旦老衰病患或ハ災難等ニ會スルヰハ必ス我心ノ動クアリテ人智ノ有限、人力ノ有量ヲ感シ始メテ不可知的ノ關門ヲ敲キ絶對ノ本躰ニ向ヒテ呼フニ至ル而シテ其躰我道理知識ノ外ニアレハ我人ハ啓示ヲ信シテ宗教ニ歸スルヨリ外ナシ蓋シ宗教ノ妙モ佛教ノ妙モ眞宗ノ妙モ此啓示ヲ離

レテ存スヘカラス故ニ古來宗教學者中ニモ宗教ニハ道理ト啓示トノ二樣並存ノ必要ヲ唱フルモノアリ蓋シ道理一方ニテ組織シタルモノハ是レ哲學ナリ啓示一方ニヨリテ組織シタルモノハ單純ノ想像的即チ感情的宗教ナリ若シ完全ノ宗教ヲ見ント欲セハ此二種ノ性質ヲ兼備シタルモノヲ取ラサルヘカラス西洋ニテ哲學上ニ宗教ヲ組織セント欲スルモノアレ𪜈道理一方ニヨルヲ以テ其目的ヲ達シ難シ又耶蘇教ノ如キハ啓示一方ヲ以テ立テタルモノナレハ今日學說ト牴觸スル所多クシテ將來之ヲ以テ學術世界ノ宗教トス

ルヿ難シ然リ而シテ獨リ佛教ハ道理啓示二方ニヨリテ組織セルモノナレハ實ニ將來ノ世界ニ適合セル宗教ト謂フヘシ是レ眞ニ佛教ノ諸教ニ超過セル點ナラント信スルナリ而シテ道理上ノ論究ハ前二段ニ於テ大略辨明シ終ルヲ以テ是レヨリ啓示ノ一點ヲ說明セントス

第二十九節　今此點ヲ說明スルニ當リ先ツ人智ノ有限ナル所以ヲ論究セサルヘカラス人智若シ無限ナラハ宇宙內外ノ道理盡ク知リ得ヘキ理ナレ𪜈人智ニテ知ルヘカラサルモノ幾多アルヲ知ラス而シテ其知ル

ヘカラサルハ他日人智ノ進ムニ從フテ知リ得ヘキモノヲ意味スルニアラスシテ到底萬々世ノ後ニ至ルモ知ルヘカラサルモノヲ云フ例ヘハ宇宙以外ノ狀態如何、絶對世界ノ實況如何等ノ問題是レナリ此ノ如キハ人智ノ進歩ニヨルモ將來到底知ルヘカラサルモノナルヿヲ知ルノミ已ニ古來ノ學者ガ皆物質ノ實躰、心象ノ本性ノ如キハ斷言シテ之ヲ不可知的ニ屬シタルハ人智ノ有限ナルニヨルナリ然ルニ之ニ反對シテ不可知的ハ決シテ人智以外ノモノニアラス已ニ不可知的ノ不可知的ナルヲ知レハ是レ可知的ナルニアラスヤ

ト論スルモノアリ其論一理アリト雖モ凡ソ知ルト云フヿニ二種アル所以ヲ記セサルヘカラス其一ハ知ルヘシト知リ其二ハ知ルヘカラスト知ル是レナリ若シ人智果シテ無限ナルニ於テハ其二者共ニ知ルヘシトシテ知ラサルヘカラス然ルニ其中ニ知ルヘカラサルモノヽ存スルハ畢竟有限ヲ證スルモノナリ縱令人智ハ佛教ニテ說クカ如ク眞如ノ理性ヨリ開發スル者ナレハ其躰無限ナリトスルモ無限ノ裏面ニハ必ス有限ノ存スルアリテ二者相離レサルモノト云ハサルヘカラス而シテ我人ハ其有限ノ一面ニ知識ヲ開クモノ

ナレハ其知識上知ルヘカラサルモノアルヿ疑ヲ容レサルナリ且ツ人智ハ相對ヨリ成リ之レニヨリテ知ルヿヲ得ルモノハ相對差別ノ境遇ニ限ルト云フヿハ古來學者ノ一致スル論ニシテ其說ニヨルモ絶對ノ境遇ハ不可知的ニ屬スヘキハ言ヲ待タス之ヲ要スルニ人智ハ有限ニシテ絶對不可知的ヲ知ルノ力ナシト謂フヘシ

第三十節　果シテ然ラハ我人ハ如何シテ絶對ノ境遇ノ存スルヲ知リ絶對ノ本躰ノ存スルヲ知ルヤ阿彌陀佛並極樂世界ハ先キニ示スカ如ク差別上ニ立ツル所

ノモノナレ𪜈之ヲ差別上ニ置クハ唯表面一方ノ見ノミ其裏面ノ性質ヲ論スルトキハ絶對ノ本躰、絶對ノ境遇ト云ハサルヘカラス然ルニ我相對ノ智力ヲ以テ之ヲ知ルヿヲ得ルハ如何ナル道理ニヨルヤ是レ必ス起ラサルヲ得サル疑問ナリ蓋シ我人ノ智力ハ有限ナルモ全ク絶對ヲ知ルヘカラサルニアラス相對ノ推理ノ及フ限リ絶對其者モ多少知リ得ルナリ即チ絶對不可知的ノ存在ノ如キ是レナリ已ニ相對ノ境遇アレハ之ニ對シテ絶對ノ境遇ナカルヘカラス可知的ノ現象存スレハ之ニ對シテ不可知的ノ本躰存セサルヘカラス是

レ我人ノ相對ノ推理ノ及ホス所ナレハ其存在スルヤ否ハ知リ得ルナリ然レ𪜈絶對其者ノ性質、或ハ不可知的其躰ノ作用ニ至リテハ我人ノ有スル相對的知識ノ知ル限リニアラス然ラハ其性質作用ハ何ニヨリテ知リ得ルカ是レ即チ啓示ニヨルモノナリ啓示トハ何ソヤ我方ヨリ推究シテ知ルニアラスシテ絶對不可知的ノ方ヨリ我カ上ニ告知スルヲ云フ或ハ我レヨリ一層優レタル知識ヲ有スルモノヨリ我レニ訓示スルヲ云フ此啓示ノ理ハ固ヨリ論理上ヨリモ推究スルヲ得ヘシ例ヘハ我人ノ如キ有限ノ智ト力トヲ有スルモノ

猶ホ多少相對ノ外ニ絶對ノ存スルヲ測知スルヲ得ル以上ハ我ヨリ優レタル無量ノ智ト力トヲ有スル神佛ノ躰果シテ存スルニ於テハ必ス彼ノ方ヨリ我方ヘ啓示スルヲヲ得ヘキ道理ナリ我ハ彼ヲ測知スルヲヲ得テ彼ハ我ニ啓示スルヲヲ得サル道理アランヤ此理ニヨリテ宗教上ニテハ絶對不可知界ノ性質作用ハ啓示ニヨリテ知リ得ルモノトナス

第三十一節　已ニ然ラハ佛教ハ誰レノ啓示ニヨリタルモノナルヤ曰ク釋尊ノ啓示ニヨル即チ其一代五十年間ノ説法是レナリ若シ又釋迦ノ本地ヲ尋ヌレハ阿

彌陀佛ノ啓示ト云フテ可ナリ今聖道諸宗モ皆此啓示ヲ要セサルニアラサルモ其成佛ハ自力ノ修行ニヨルモノナレハ淨土門ノ如ク甚シカラス淨土諸宗ハ阿彌陀一佛ニ歸依シテ未來其淨土ニ往生セン「ヲ志願スルモノナレハ必ス此啓示ヲ信セサルヘカラス固ヨリ道理上ニ於テモ阿彌陀佛ノ存スヘキ所以及ヒ此佛ニ歸依シテ未來成佛スヘキ所以ハ多少推知スル「ヲ得ルモ其果シテ然ル所以ヲ直接ニ證見スルハ釋迦彌陀ノ諸佛ノ啓示並眞宗ニ於テハ其開山及七祖ノ垂訓ニヨルヨリ外ナシ凡ソ世間ノ人ニシテ苟モ佛教ノ門ニ

入リ眞宗ノ法ヲ窺ハント欲スルモノハ必ス此點ニ於テ信スル所ナカル可ラス蓋シ其宗ニ於テ末代今日ノ凡愚ト云フハ獨リ今日ノ愚夫愚婦ヲ指スニアラス如何ナル智者學者ニテモ有限ノ知識ヲ有スル以上ハ無限ノ知識ヲ有スルモノヨリ之ヲ視レハ實ニ無智不學ノ凡愚ト呼ハサル可ラス又今日ノ青年書生ガ二三ノ書ヲ讀ミ一二ノ事ヲ知ルモ之ヲ釋尊ノ如キ大聖人ニ比シテ果シテ智者學者ト誇稱スル「ヲ得ヘキヤ余輩カ物理天文ノ一部ヲ知ルモ自ラ發見シテ之ヲ知ルニアラス他人ノ發見シタルモノヲ他人ノ著セル書ニツ

イテ知ルノミ然ルニ釋迦牟尼大聖ハ自ラ宇宙ノ大眞理ヲ啓發シ前代未聞ノ大宗教ヲ開立シ其教ハ滅後四方ニ傳播シ三千年下ノ今日ニアリテ全地球上五億人ノ信者アルヲ見ルハ實ニ其德化ノ無量無邊ナルヲ驚嘆セサル可ラス余輩果シテ此大聖人ト比肩スヘキヤ縱令余輩今死スルモ誰レカ百年ノ後其墓ヲ訪ヒ其名ヲ記スルアランヤ是レ豈天壤ノ相違アルニアラスヤ然ルニ今日ノ青年輩動スレハ此ノ如キ聖人ヲ輕賤シ猥リニ其說ヲ排斥セントス何ソ思ハサルノ甚キヤ請フ少ク自省スル所アレ若シ夫レ我人ノ智力ノ有限ナ

ルヲ知リテ更ニ深ク哲理ノ上ニ考フルニ此眼前ノ世界ハ我五感上ニ成立スル現象ニ過キス我心內ノ思想ト雖モ我腦髓中ニ發動スル作用ニ外ナラサレハ假リニ五感以上ノ感覺ヲ有シ人類ヨリ數倍發達セル腦髓ヲ有スルモノアリト定メテ以テ我人ノ今日論スル所、爭フ所ノモノヲ考ヘ來ラハ實ニ抱腹ニ堪ヘサルヿ多カラン此ノ如キハ空想ノ一種ナリト雖モ空間ノ廣キ時間ノ永キ世界ノ多キ宇宙ノ大ナル果シテ五感以上ノモノナキヲ保證ス可ラス又我人ヨリ數倍發達セルモノナキヲ斷言ス可ラス故ニ我人ハ其有限ノ智力ニ

テ知ル可ラサルモノアラハ宜ク我ヨリ高等ニ位セル聖賢神佛ノ啓示ニ依憑セサル可ラス此點ハ佛教中淨土一門別シテ眞宗ニ要スル所ナレハ左ニ其理由ヲ述フヘシ

第三十二節　聖道諸宗ハ平等上ニ理論ヲ立テ差別上ニ實際ヲ取リ淨土及眞宗ハ其反對ヲ取リタル「ハ先キニ第二十節ニ於テ論明セル所ナルカ更ニ其理ヲ絶對相對ノ上ニ於テ考フルトキハ聖道門ノ實際ハ相對差別ノ上ニツイテ一善々々ヲ修メテ一級ツヽ昇進スル漸進的秩序ニヨリタルモ淨土門ハ然ラス其實際ハ相

對ヨリ絶對ニ超達スル直進的方法ヲ取リタルモノナレハ格別ニ啓示說ヲ信セサルヘカラス已ニ眞宗ニ於テ左ノ如キ分類ヲナシ眞宗ハ其中ノ横超ニ屬スルハ直チニ相對ヨリ絶對ニ超達スルヲ云フナリ

大乘
- 頓教
  - 竪超（難行道聖道門即天台華嚴等）
  - 横超（易行道淨土門即眞宗）
- 漸教
  - 竪出（難行道聖道門即法相宗）
  - 横出（易行道淨土門即淨土宗等）

而シテ聖道門ヲ竪超竪出ト稱シテ之ニ竪ノ字ヲ配スルハ其修行ノ相對的ニシテ漸々昇進シテ絶對ニ到達スル方法ニヨルノ意ヲ示スナリ之ニ反シテ眞宗ノ如

キハ竪ニ相對ノ階級ヲ昇リ極ムルヲ要セス横ニ相對ヨリ直チニ絶對ニ超達スル一種ノ新法ナレハ横ノ字ヲ附シテ餘宗ニ區別シタルモノナリ然ルニ此點ハ聖道諸宗ノ修行ト眞宗ノ修行ト一致適合セサルヲ以テ眞宗信者スラ猶ホ其修行ノ因果ノ理ニ合セサルヲ疑フ所ナリト雖モ是レ畢竟相對ヨリ絶對ニ達スルニ表裏二道アリテ聖道門ハ表面ノ道ヲ取リ淨土門ハ裏面ヲ取リタルニヨルノミ固ヨリ因果ノ理ニ於テ二樣アルニアラサルナリ然レ𪜈我人ノ所謂因果ノ理ハ相對上ニアルモノニシテ絶對上ニ存スルモノニアラス何

者因果其者已ニ相對ナレハナリ因ハ果ニ對シ果ハ因ニ對シテ因アリ果アルモノナレハ其相對ノ理法ナルヿ明カナリ故ニ人智ノ及フ所、因果ノ理ノ存セサルハナシト雖モ人智以外ナル絶對ノ内部ニ入リテハ因果ノ沙汰ノ限リニアラス然レ𪜈因果ノ理ハ絶對ノ躰ヲ離レテ別ニ存スルニアラスシテ絶對ニ固有セル規則ナルヿ亦疑フヘカラス唯、絶對固有ノ規則ナルモ相對ノ表面ニ其作用ヲ現スルモノト知ルヘシ例ヘハ眞如ノ本躰ニ絶對相對ノ二面ヲ兼有スルト定ムルモ因果ノ理法ハ眞如其躰ノ規則ナレハ絶對ノ面ニ其本源ヲ

有シテ相對ノ面ニ其作用ヲ示スモノト知ルヘシ故ニ古來淨土門ノ阿彌陀佛及淨土ニツイテ一疑問アリ即チ凡ソ因緣ニヨリテ所成セルモノハ皆生滅アリ阿彌陀及其淨土ハ因緣所成ナリ故ニ生滅アルヘシト云フ是レ全ク相對ト絶對トノ關係ヲ知ラサル論ノミ阿彌陀佛ハ相對ヲ極メテ絶對ニ達シタルモノニシテ因緣ノ規則及ヒ論理ノ推測ハ相對ノ範圍内ニ其作用ヲ示スモノナレハ決シテ其理ヲ絶對ノ上ニ適用スヘキモノニアラス蓋シ淨土門ノ阿彌陀佛ハ差別相對ノ最上ニ位シ猶ホ差別ノ成立ヲ有スルモノナレハ因果ノ理

法ハ表面ノ一部分ニ於テ應用スヘキモ若シ其躰ノ性德ヲ論スルニ至リテハ絶對ト一致シタルモノナレハ因果ノ沙汰ニハアラサルナリ以上ノ道理ニヨリテ余ハ淨土門別シテ眞宗ハ實際上ニ絶對ヲ說クモノナレハ道理外ノ啓示ヲ待タサルヘカラスト云フナリ

第三十三節　是ニ由テ之ヲ觀ルニ如何ナル宗教モ神佛若クハ聖賢ノ啓示ヲ要スルモノナレハ佛教モ縱令道理ニヨリテ組織セルモ同ク啓示ヲ要スル「明ナリ然ルニ聖道門ハ自力ノ修行ニシテ自證自知ノ法ナレハ啓示ヲ要スル「淨土門ノ如ク甚シカラサルモ淨土

及眞宗ノ教理ハ道理ニ屬スル部分ヨリ啓示ニ屬スル部分多ケレハ特ニ啓示ノ必要ヲ說カサルヘカラス故ニ此點ハ聖道淨土ノ異ナル一點ニシテ眞宗哲學ノ原理ノ一種ニ加フルモ決シテ不當ニアラサルナリ然レトモ其啓示ノ裏ニハ必ス道理ノ伴フアリテ二者又決シテ相離レサルナリ故ニ若シ此點ニ於テ强テ聖道淨土ノ別ヲ示サント欲セハ聖道門ハ表面ハ道理ニ本ツキ裏面ハ啓示ニヨリ淨土門ハ表面ハ啓示ニヨリ裏面ハ道理ニ本ツクト評定スルモ敢テ全ク妄言ニアラサルヲ信ス凡ソ如何ナル宗教ニテモ神秘奇怪ヲ說カサル

モノナシ佛教各宗ニモ眞宗ニモ同ク此事アリ是レ人ノ大ニ疑念ヲ抱ク點ナレトモ世ニ理外ノ理アルヿハ又決シテ排スヘカラス而シテ其理ニ物理外ノ理ト論理外ノ理トノ二種アリ今佛教ノ神秘奇怪ノ談中ニ物理外ノ理ニ屬スルモノト論理外ノ理ニ屬スルモノヽ二種相混スルヲ見ル例ヘハ我人ヨリ一層高等ノ佛菩薩アリト云フヿハ物理上ニテハ信シ難キモノニシテ所謂物理外ノ理ト云ハサルヘカラサルモ論理上ヨリ思想ノ原理ニヨリテ推究スルトキハ全ク信スヘカラサルモノニアラサルハ論理外ノ理ニアラサルニヨル然ル

ニ若シ物理ニ照シテモ論理ニ考ヘテモ知量スヘカラサル神秘奇怪ノ談ニ至リテハ之ヲ眞理トシテ信スヘカラス例ヘハ父ナクシテ子アリ葬リタル死躰ノ蘇生シテ天ニ昇ルト云フ類是レナリ縱令此ノ如キ怪談ハ啓示ナリトスルモ苟モ神ガ道理ヲ知ルモノナラハ此ノ如キ物理ニモ論理ニモ合セサル不道理ノ啓示ヲナス筈ナシ今眞宗ニテ說ク所ノ啓示ハ其裏面ニ道理ヲ含有シ阿彌陀佛ノ存在ト云ヒ我人ノ救助ヲ受クヘキ理由ト云ヒ道理上多少論定スルヿヲ得ルモノナレハ物理外ノ理トスルモ論理外ノ理ニアラサルヿ明カナ

リ是レ畢竟眞宗ト耶蘇教トノ異ナル一點ニシテ耶蘇教ハ啓示一方ニヨリテ立テタルモノナレハ其神秘奇怪ハ物理ニモ論理ニモ合セサル不道理ノ點多シ今余ガ眞宗ニハ啓示ヲ要スト云フモ此ノ如キ不道理ノ啓示ヲ云フニアラスシテ道理的啓示ヲ云フナリ換言スレハ道理ト啓示ト二樣一致ノ啓示ヲ云フナリ而シテ其一致ノ點ハ實ニ妙味ノ存スル所ニシテ眞宗哲學ノ要處ハ其レ此點ニアランカ

第七段　歸結論

第三十四節　聖道淨土ノ關係

第三十五節　平等差別ニ前後ヲ生スル理由

第三十六節　實際上眞宗ト他宗トノ關係

第三十七節　眞宗ト淨土宗トノ異同

第三十八節　眞宗ト政治トノ關係

第三十四節　上來眞宗原理ヲ三條ニ概括シテ論辨シタルヲ以テ其教理ノ組織ハ此三條ヲ綱目トスル所以並ニ其聖道諸宗ト異ナルハ此三條ノ點ニアル所以已ニ知ルヿヲ得タリト信ス今其原理ト佛教全躰ノ原理

並哲學ノ原理ト如何ナル關係氣脈ヲ有スルカヲ一言セントス抑モ眞宗ノ原理ハ淨土諸宗ノ原理ト大同少異ナレハ之ヲ概括シテ論スルヿヲ得ルモ聖道諸宗ノ原理ト其原理トハ全ク表裏相反シ別種ノ宗教ナルガ如ク見ユルナリ然レモ是レ其表面ノ異ナルノミニシテ裏面ニ入リテ兩方相較スルヽハ互ニ一致スル所アルヲ見ル唯其異ナルハ一方ニテ表面ニ說キタルモノヲ他方ニテ裏面ニ說キタルヿ是レノミ若シ夫レ佛教全躰ノ原理及哲學一般ノ原理ノ上ヨリ之ヲ視ルヽハ表裏相反スル性質ノ一佛教中ニ存スルハ却テ其完全

ノ宗教ナル所以ニシテ又其眞理ニ適合セル所以ナリ何者如何ナル道理ニテモ必ス相反ノ理アルモノニテ其相反ノ理亦互ニ相連リテ表裏相離レサルモノナリ之ヲ先キニ二樣並存一躰兩面ノ關係ト云フ若シ其相反二樣ノ理ヲ全ク相離レタルモノト固執シテ其一躰連合ノ理ヲ知ラサルモノハ偏見ノ非眞理ニシテ其理ヲ知ルモノハ中道ノ眞理ナリ今佛教ハ徹頭徹尾此中道ノ眞理ニヨリテ組織シ眞宗ノ三原理ノ如キモ自然ニ表裏兩面ニ分レ純正哲學上ヨリ之ヲ視レハ表面ニ差別ヲ說キ裏面ニ平等ヲ取リ心理學上ヨリ之ヲ論ス

レハ表面ニ感情ヲ示シ裏面ニ智力ヲ含ミ宗教學上ヨリ之ヲ考フレハ表面ハ啓示ニヨリ裏面ハ道理ニ本キ表裏一致二樣不離ノ眞理ヨリ成リタルモノナリ且ツ此三條ノ原理亦各一致對合スル所アリ即チ第一條ノ差別ハ第二條ノ感情ニ應合シ第二條ノ感情ハ第三條ノ啓示ニ對立ス何者眞宗ハ差別上ノ宗教ニシテ其立ツル所ノ佛躰ハ差別上ノ成立ト差別上ノ作用トヲ有スルヲ以テ之ヲ信スルニハ智力ノ推究ヨリハ感情ノ想像ヲ取ラサルヘカラス又感情ニヨリテ想出シタルモノハ道理ニテ測定スヘカラサルモノアレハ聖賢ノ

啓示ニヨラサルヘカラス而シテ若シ其裏面ニ入リテ之ヲ視レハ平等ト智力ト道理ト互ニ一致應合スルヿハ辨明ヲ要セスシテ知ルヘシ凡ソ如何ナル道理ニテモ之ヲ推究スルハ智力ニシテ其推究ニヨリテ差別ノ現象ノ裏面ニ平等ノ理法アルヿヲ知ルナリ故ニ其原理ハ歸スル所一原理ナリ以上ノ關係ヲ更ニ算式ニヨリテ示スヿ左ノ如シ

第一 聖道門ニ(表面)平等ト(裏面)差別
　　淨土門ニ差別ト平等
　　(故ニ)淨土門ニ聖道門

第二 聖道門ニ智力ト情感
　　淨土門ニ感情ト智力
　　(故ニ)淨土門ニ聖道門

第三 聖道門ニ道理ト啓示
　　淨土門ニ啓示ト道理
　　(故ニ)淨土門ニ聖道門

是ニ由テ之ヲ觀ルニ聖道門ト淨土門トハ表裏前後ノ相違アレ𪜈其總和ニ至リテハ同一ナリ故ニ聖道門ニシテ眞理ナラハ淨土門モ同樣ニ眞理ナラサルヘカラス聖道門ニシテ完全ナル宗教ナラハ淨土門モ同樣ナ

ルヘシ若シ之ヲ耶蘇教ノ上ニ考フルニ其教ト淨土門トハ表面上相似タル所アルモ前者ハ表面一方ヲ有シテ裏面ヲ缺キ後者ハ表裏兼備スルニ至リテハ大ニ異ナル所アリ是レ淨土門ノ耶蘇教ニ超過セル所以ニシテ併セテ佛教ノ完全ノ宗教タル所以ナリ

第三十五節　以上ハ原理上ノ論定ニシテ全ク眞宗ノ理論ニ屬スル部分ナリ是レヨリ此論ヲ歸結スルニ當リ實際上ノ應用ヲ論シテ其可否得失ヲ判セサルヘカラス眞宗モ餘宗モ共ニ一佛教中ノ宗旨ナレハ局外ヨリ公平ノ觀察ヲ下スキハ理論上ニ於テハ各表裏兩面

ノ關係ヲ具シ對等同權ノ資格ヲ有スルヲ以テ其間ニ優劣ヲ判シ難シト雖モ實際上ニ至リテハ大ニ得失ヲ異ニスル所アリ今之ヲ判定スルニ先チテ第一ニ論辨セサルヲ得サル點ハ佛教ノ原理ハ平等差別表裏一致ノ中道ナリトスルキハ何故ニ或ハ平等ヲ主トシ或ハ差別ヲ主トスルヿヲナスヤ何故ニ直チニ中道其物ヲ取ラサルヤ又其二樣ノ理均シク聖道門中ニ存スル以上ハ何ンノ必要アリテ更ニ別ニ淨土門ヲ開立スルヤ等ノ疑問ナリ先ツ或ハ表面ニ平等ヲ取リ或ハ裏面ニ差別ヲ取ルハ其本意飽マテ中道ヲ取ルニアルモ實際

上之ヲ許サヽル事情アルニヨル例ヘハ此ニ一枚ノ紙アリ表裏兩面ヨリ成ル我今其紙ノ全躰ヲ見ント欲スルヽハ必ス先ツ表面ヲ見テ後裏面ニ及ホスカ若クハ先ツ裏面ヲ見テ後表面ニ及ホスカ二者中其一ヲ擇ハサルヘカラス決シテ表裏二面ノ先後ヲ立テスシテ同時ニ其全躰ヲ併視スルヿ能ハス今佛教ハ表裏二面卽チ平等差別二樣ニヨリテ成リタルモノナリ若シ其全躰ヲ窺ハントスルヽハ自然ノ勢必ス平等ヲ先キニスルカ差別ヲ先キニスルカ二者中其一ヲ擇ハサルヘカラス是レ聖道諸宗ノ表面ニ平等ヲ取リ裏面ニ差別ヲ取リテ二者ノ上ニ先後ヲ生シタル所以ナリ聖道門已ニ此ノ如キ順序ヲ取ル以上ハ之ニ對シテ表面ニ差別ヲ取リ裏面ニ平等ヲ取リテ中道ノ平均ヲ立ツルモノナカルヘカラス是レ淨土門ノ組織ノ聖道門ニ反對シテ起リタル所以ナリ此二門相合シテ始メテ完全公正ノ宗教組織ヲ見ルナリ

第三十六節　果シテ然ラハ更ニ一問アリテ起ル聖道門モ佛教ノ一部分ナリ淨土門モ佛教ノ一部分ナリ決シテ其間ニ優劣ヲ判スヘカラス然ルニ淨土門ノ人ハ淨土門ヲ以テ最勝ノ教トナスハ如何、曰ク聖道モ淨土

モ共ニ佛教ノ一部分ナレハ一部分ノ裏ニ全躰ヲ具スルハ亦佛教ノ哲理ニシテ先キニ差別ノ裏ニ平等アリト云フモノ是レナリ因テ淨土門ハ聖道門ト對等同權ノ資格ヲ有スル「明ガナリ然ルニ淨土門ニテ其教ヲ最勝トナスハ理論ノ比較ヨリハ寧ロ實際ノ關係ヨリ生スルモノナリ實際ノ關係トハ今日ノ時機ニハ平等說ト差別說ト孰レカ適合スルヤ難行道ト易行道ト孰レカ相應スルヤノ考察ヲ下スヲ云フ蓋シ先キニ第九節ニモ述フルカ如ク眞理ハ平等差別ノ中道ニアリト云フモ若シ其當時ノ世論平等ノ一方ニ偏スルトキハ中

道ノ中心點ハ差別ノ上ニアリ又差別ノ一方ニ偏スルトキハ其點ハ平等ノ上ニアルヘシ故ニ時機ニ照合シテ考察スルトキハ淨土差別ノ論ノ却テ中道ノ權衡ヲ保チ聖道平等ノ論ノ却テ其正平ヲ失スル「アリ然ルニ今日ノ時運ハ佛教ニテハ末代惡世ト說キテ聖道自力ノ難行ノ適セサル時ナレハ淨土他力ノ易行ニヨルヨリ外ナシト考定シ來リテ淨土門ノ聖道門ニ勝ル「ヲ說クニ至レリ故ニ我人社會ノ實情ヲ觀察シ一身ノ狀態ヲ省思スルトキハ正ク淨土門ノ時代ナル「ヲ知ルヘシ而シテ今日ヲ末代惡世ト云フハ佛教ノ正像末三時ノ

說ヨリ出テタルモノナリ此三時ノ說ハ世ノ退化ヲ示スモノナレハ今日ノ進化說ニ背反スルト論スルモノアレモ此退化說ハ宗教ノ實行上ニ於テ立テタルモノナレハ宗教ノ性質上ヨリ考察セサルヘカラス抑モ今日ハ社會ノ人智漸々進化シテ種々ノ學說發達シ來ルモ其發達ニヨリテ得タル知識道理カ却テ我實行ヲ妨ケ宗教ニテ定ムル所ノ安心立命ノ法則モ守ル人少ナキニアラスヤ且ツ宗教ハ學術上ニ考究スルカ如キ人智ト共ニ變遷スル眞理ニヨリテ組織シタルモノニアラスシテ萬世不變ノ眞理ヲ其教祖ノ啓示ニヨリテ組

織シタルモノナレハ學術ト宗教トヲ混同シテ比論スヘカラズ然ルニ世人ハ學術上ノ變遷的眞理ノ發達ヲ見ルヤハ忽チ不變的眞理ノ宗教上ニ存スルヲ忘レ宗教其者ヲ排スルニ至ル故ニ宗教上ニテハ退化ヲ唱ヘサルヲ得サルナリ此ノ如キ今日ニアリテハ聖道ノ難行ハ到底適セサレハ淨土宗祖及眞宗開山ハ他力易行ノ道ヲ說キ示シテ時機相應最勝至適ノ法ナリトナセリ是レ實ニ時機ヲ看破シタル千古ノ活眼卓見ト謂フヘシ

第三十七節　若シ更ニ實際上ニ涉リテ論スルヤハ眞

宗ノ卓見此外ニ存スルモノ幾多アルヲ知ラス今其二三ヲ陳述スヘシ抑モ眞宗ハ淨土宗ヨリ分派獨立シタルモノナレトモ多少其主義ヲ異ニスル所アリ二宗共ニ他力往生ヲ唱フルモ淨土宗ハ阿彌陀ノ佛力ニ依憑スルト同時ニ多少自身ノ善行ニ依憑スルヲ以テ未タ純全ノ他力教ト云フヘカラス又其念佛ノ如キモ口稱ノ功力ニ依賴スルカ如キハ猶ホ自力ノ一部分ニ屬スル所アリ且ツ其世間ニ對スル一段ニ至リテハ淨土宗ハ聖道諸宗ノ主義ニ異ナラサルナリ今眞宗ハ然ラス其宗義ハ世外ノ佛ニ對スル部分ト世間ノ人ニ對スル部

分トノ二段ニ分レリ其一ヲ眞諦ト名ケ其二ヲ俗諦ト名ケ此二諦兼行ヲ以テ其宗ノ本旨トス即チ佛法ト王法トヲ兼說スルモノ是レナリ眞諦門ノ上ニテ云フトキハ眞宗ハ一佛躰ヲ立テヽ一向專念ヲ唱ヘ餘行雜善ヲ混セス唯一心ニ其佛力ニ歸順スルヿヲ說キタルハ實ニ卓見中ノ卓見ニテ純然タル他力的宗教ノ眞相ヲ開顯スルモノナリ故ヲ以テ眞宗信者ハ禁厭祈禱以テ一時ノ禍福ヲ僥倖セントスルカ如キ卑劣ノ所行ヲナサス其平素ノ佛ニ對スル業務モ稱名念佛ニシテ南無阿彌陀佛ノ六字ヲ稱念スルニアリ其稱念モ徒ラニ口ニ

稱スル念佛ヲ云フニアラス佛力ノ不可思議ヲ信知シテ之ニ歸順スルヲ云フ斯クシテ其心定リタル上ハ其日夜ノ稱名ハ報恩ノ業務トシテ佛恩ノ廣大ナルニ報謝スルノ意ナリ其他佛前ニテ營ム所ノ讀經禮拜等モ亦皆報恩ノ一部分ニ外ナラス是ヲ以テ眞宗ハ其儀式莊嚴供養等モ專ラ單純ヲ主トシ偶像ノ如キモ六字名號ヲ以テ足レリトシ純全ノ他力敎ヲ完成スルニ至レリ其信者ヲシテ阿彌陀一佛ニ歸向セシメタルカ如キハ實ニ大ニ世間ノ人心ヲシテ一致結合セシムルノ益ヲ與ヘリ若シ聖道諸宗ノ如キ自力成佛ノ法ニ於テハ

人々孤立スルノ傾向アリト雖モ淨土諸宗就中眞宗ニ至リテヨク人心ヲ一結シテ宗敎世界ニ勢力ヲ有スルニ至リタルハ其敎義ノ中ニ一佛專念ヲ立ツルニヨルハ明カナリ此點ハ亦大ニ國家ノ獨立ニ關係ヲ有スル所ナリ何者政治上宗敎ノ必要ヲ感スル第一點ハヨク人心ヲ團合一結シテ其國ノ獨立ヲ維持スルニ力アレハナリ以上ハ眞諦門ト實際トノ關係ナリ若シ俗諦門ノ上ニ考フルヽハ眞宗ニ於テハ出世間遁世ノ宗風ヲ一變シテ世間俗流ノ宗規ヲ立テ僧侶ノ蓄妻噉肉ヲ許シ王法爲本ヲ說キ敬神愛國仁義禮讓ノ如キ世道ヲ遵

守スルヿヲ勸メ國家ト共ニ其教ヲ盛ニセンヿヲ期シタルカ如キ是レナリ其古來國利ヲ助ケ民福ヲ進メ世ヲ教政道ニ裨補スル所少カラサリシハ余カ辨ヲ待タス且ツ其眞俗二諦ノ如キモ歸スル所平等差別二樣並存ノ道理ニ本ツキ世間出世間ノ中道ヲ取リタルモノニ外ナラス故ニ眞宗ハ我邦宗教歷史ニ於テ理論上並ニ實際上ニ於テ前後ニ比類ナキ一大改良ト謂フヘシ

第三十八節　此ノ如ク眞宗ハ理論上ニテモ實際上ニテモ實ニ美ヲ盡クシ亦善ヲ盡クシ完全大成シタル宗教ナリ然ルニ世人ハ之ヲ愚民ノ妄想ニ歸シ未來ノ怪

談ニ屬シ更ニ政道人事ノ上ニ裨益ナキモノト見做セルハ獨リ宗教ノ爲メニ遺憾トスルノミナラス國家ノ爲メニ遺憾トセサルヲ得ス抑モ我邦今日ノ如キ文運ノ隆盛ナルハ前代未タ曾テ聞カサル所ナリト雖モ政海猶ホ未タ穩波ヲ見ス人心猶ホ未タ水平ヲ保タス前途雲深フシテ殆ント行ク處ヲ知ラス是レ豈余輩ノ高臥安眠スルノ時ナランヤ嗚呼將來何ニヨリテ此政海人心ヲ靜定センヤ是レ實ニ憂國者ノ苦心焦慮スル所ナリ凡ソ何レノ國、何レノ世ヲ問ハス政治ノ裏面ニ必ス宗教ノ存スルアリテ一國ノ安寧ヲ保持スルヲ見ル